令和の魅力と活力ある県立高校のあり方に関する報告書

令和５年５月

富山県教育委員会

目　　次

はじめに ・・・・・・・・・・ 1

第１章　県立高校教育を取り巻く現状 ・・・・・・・・・・ 2

1　国の動向 ・・・・・・・・・・ 2
2　本県の取組み ・・・・・・・・・・ 2
3　本県の中学校卒業予定者数の減少 ・・・・・・・・・・ 3
4　生徒の多様化 ・・・・・・・・・・ 4

第２章　県立高校の学びの改革に向けて ・・・・・・・・・・ 5

1　令和の魅力と活力ある県立高校づくりの目指す姿 ・・・・・・・・・・ 7
2　令和の魅力と活力ある県立高校づくりに向けた６つの方向性 ・・・・・・・・・・ 7
3　実効性のある取組みの推進 ・・・・・・・・・・ 10

第３章　魅力と活力ある県立高校のあり方 ・・・・・・・・・・ 11

1　魅力と活力ある県立高校づくりに向けた各学科共通の視点 ・・・・・・・・・・ 11
2　現在の学科構成 ・・・・・・・・・・ 12
3　普通系学科と職業系専門学科の割合 ・・・・・・・・・・ 12
4　普通系学科 ・・・・・・・・・・ 13
　A　普通科及び普通科コース ・・・・・・・・・・ 13
　B　理数科学科・人文社会科学科（探究科学科） ・・・・・・・・・・ 15
　C　国際科 ・・・・・・・・・・ 16
5　総合学科 ・・・・・・・・・・ 17
6　職業系専門学科 ・・・・・・・・・・ 18
　A　農業科 ・・・・・・・・・・ 19
　B　水産科 ・・・・・・・・・・ 20
　C　工業科 ・・・・・・・・・・ 21
　D　商業科 ・・・・・・・・・・ 22
　E　家庭科 ・・・・・・・・・・ 23
　F　看護科 ・・・・・・・・・・ 24
　G　福祉科 ・・・・・・・・・・ 25
7　定時制・通信制 ・・・・・・・・・・ 26
8　様々なタイプの学校・学科など ・・・・・・・・・・ 27
　（1）　中高一貫教育校 ・・・・・・・・・・ 27
　（2）　国際バカロレア（ＩＢ）認定校 ・・・・・・・・・・ 28
　（3）　全国募集 ・・・・・・・・・・ 29
　（4）　多様な生徒への対応 ・・・・・・・・・・ 29

第４章　県立高校の規模と配置 ･････････ 30
１　学級編制等 ･････････ 30
（１）　募集定員 ･････････ 30
（２）　学級定員 ･････････ 30
（３）　学区 ･････････ 30
２　県立高校整備等 ･････････ 31
（１）　令和２年度再編統合に係る計画について ･････････ 31
（２）　令和２年度再編統合校（４校）の状況 ･････････ 32
（３）　令和２年度再編統合に関するアンケート調査結果の概要 ･････････ 40
（４）　令和２年度再編統合の評価 ･････････ 42
（５）　県立高校のあり方に関するアンケート調査結果の概要 ･････････ 48
（６）　今後の再編計画について ･････････ 50

おわりに ･････････ 51

令和の魅力と活力ある県立高校のあり方に関する検討経過等 ･････････ 52
令和の魅力と活力ある県立高校のあり方検討委員会設置要綱 ･････････ 53
令和の魅力と活力ある県立高校のあり方検討委員会名簿 ･････････ 54
用語の解説 ･････････ 55

（資料編）
１　県内における高校の設置状況 ･････････ 60
２　県立高校（全日制）地区別募集学科構成 ･････････ 61
３　普職比率と学科別募集定員の推移 ･････････ 62
４　各学科の定員割合の推移と全国状況（公立高校全日制課程） ･････････ 63
５　中学３年生及び義務教育学校９年生の学科別進学希望状況と学科別募集定員割合 ･････････ 64
６　職業系専門学科卒業生の進路状況 ･････････ 65
７　定時制・通信制の設置学科 ･････････ 66
８　全日制・定時制高校の在籍生徒数の推移 ･････････ 67

【別冊】
県立高校のあり方に関するアンケート調査結果
令和２年度再編統合に関するアンケート調査結果

はじめに

富山県教育委員会は、平成19年に策定された「県立学校教育振興計画 基本計画」（以下「基本計画」といいます。）に基づき、一定の学校規模を確保するとともに、新しいタイプの高校を設置するなど、生徒が相互に切磋琢磨できる学習環境をつくることを目的として、平成22年４月、前期の再編統合を実施（新高校５校を開校）しました。

しかしながら、その後、本県における中学校卒業予定者数が、平成30年には１万人を割り込み、以後急速に減少していくと見込まれました。

高校再編（後期計画）については、基本計画において、「前期計画が実施された後に、その再編状況を踏まえ、別途協議することが望ましい」とされていたため、平成25年８月に「県立高校再編（前期計画）の評価と今後の課題に関する検討委員会」を設置し、平成26年６月に「県立高校再編（前期計画）の評価と今後の課題」として取りまとめました。この中で、県立学校整備のあり方について引き続き検討を進めることとされたため、平成26年９月、「県立学校整備のあり方等に関する検討委員会」を設置し、議論を進め、平成28年４月、「県立学校整備のあり方等に関する報告書」として取りまとめました。この報告書を受け、平成28年から総合教育会議において、丁寧に議論を重ね、平成30年２月に再編統合を決定し、令和２年４月に４件の再編統合を実施（新高校４校を開校）しました。

令和２年の再編統合については、「県立高校再編の実施計画」に基づき、令和８年度までの生徒数を見通して実施しており、令和９年度以降の対応については、「県立高校再編の実施方針」に基づき、中学校卒業予定者数の推移等を踏まえ別途協議することとしています。

現在、「Society5.0[※1]」の到来や技術革新・グローバル化の進展、少子化の進行などに加え、新型コロナウイルス感染症の影響により、社会のあり方や考え方が大きく変化しています。このような変化の激しい予測困難な時代に柔軟かつ適切に対応し、多様な人々と協働しながら社会を創り出す人が求められています。こうした観点から、将来グローバルに活躍する人材や地域産業を支える職業人など、未来を切り拓く生徒を育成するために、高校教育において生徒の様々な可能性を引き出せるよう、中長期的な展望に立って、幅広い角度から丁寧に検討を進める必要があります。

このため、令和３年８月、学識経験者、教育関係者、経済界の代表、保護者の代表などの委員16名及び学識経験者２名のアドバイザーからなる「令和の魅力と活力ある県立高校のあり方検討委員会」を設置し、議論を進めてきました。

この報告は、これまで９回にわたって検討委員会を開催し検討してきた内容を、パブリックコメントを踏まえ、「令和の魅力と活力ある県立高校のあり方に関する報告書」として取りまとめたものです。

第１章　県立高校教育を取り巻く現状

本県においては、「粘り強さ」、「勤勉性」、「積極進取の気性」など生きる力を育む豊かな自然や教育熱心な県民性、教育に対する理解や支援を惜しまない家庭や地域、企業、熱意と使命感をもって優れた成果を上げてきた資質の高い教員など、教育を支える恵まれた土壌があり、子どもたちの個性や能力を育む熱心な教育活動が展開されており、「教育県」として高い評価を受けてきました。

しかしながら、変化の激しい予測困難な時代を迎え、ＡＩやＩｏＴ※2等の技術革新やグローバル化が進展する中、将来展望に立った高校教育の課題、地方創生の視点、生徒・保護者のニーズ等を考慮した魅力と活力ある県立高校のあり方等について、10年後、20年後の社会像を見据えて、生徒の様々な可能性を引き出し、新たな時代を担う生徒を育成するため、教育充実の観点を基本にしながら、丁寧に検討を進めることが求められています。

１　国の動向

文部科学省は、中央教育審議会の「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して（答申）」を受け、各高等学校の特色化・魅力化をより一層推進するため、令和３年３月に学校教育法施行規則等を一部改正し、各高等学校において「三つの方針（スクール・ポリシー）※3」を定めることを義務づけました。

また、新しい時代の高等学校教育の実現に向け、多様な学科の設置の検討も進められており、普通科については、生徒が多様な分野の学びに接することができるよう、「普通教育を主とする学科」として、複合的な学問分野に対応した「学際領域に関する学科」や地域課題の解決を目指す「地域社会に関する学科」等の普通科以外の学科が設置可能となりました。職業系専門学科については、地域の産学官の関係者が一体となり将来の地域産業界のあり方を検討することなどが必要であるとしています。総合学科については、自分とは異なる興味・関心を持つ生徒と共に多様な科目を履修することで、多様な分野に関する知識及び技能や異分野と協働する姿勢といった資質・能力を育成することを推進することとしています。

２　本県の取組み

各県立高校では、これまで生徒の学習意欲を喚起し、可能性や能力を最大限に伸ばすための特色化・魅力化に取り組んできました。例えば、生徒の進路実現に向け、教育課程の策定にあたり学校独自の科目の設定を行い、地域や学校の実状に応じて大学や専門学校、企業等から講師を招いての進路セミナーや出前講座、「17歳の挑戦※4」などの体験活動を大学や専門学校、企業等と連携して実施しています。国の制度改正を受け、令和４年度に学校が育成を目指す資質・能力や教育課程の編成方針などを定

めたスクール・ポリシーの策定・公表を行いました。

県教育委員会では、平成30年度から次期学習指導要領の改訂の趣旨を先取りし、大学教授等専門家の指導・助言を受けながら、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を推進してきました。

また、令和４年度からの新学習指導要領の円滑な実施に向けて、学校のスクール・ポリシーなどに基づき、カリキュラム・マネジメント※5や主体的な学びをさらに促進させるため、全県立学校においてプロジェクト学習※6を導入して、課題発見・解決能力を育成する探究型学習の推進に取り組んできました。

こうした取組みとあわせ、新学習指導要領において、全ての教科・科目等の目標及び内容が資質・能力の三つの柱※7として示され、観点別学習状況の評価については、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の３観点に整理されたことから、その評価に基づき生徒の基礎学力の定着状況を把握、分析し、個々の課題に対し、具体的な改善策を検討し、実施する必要があります。

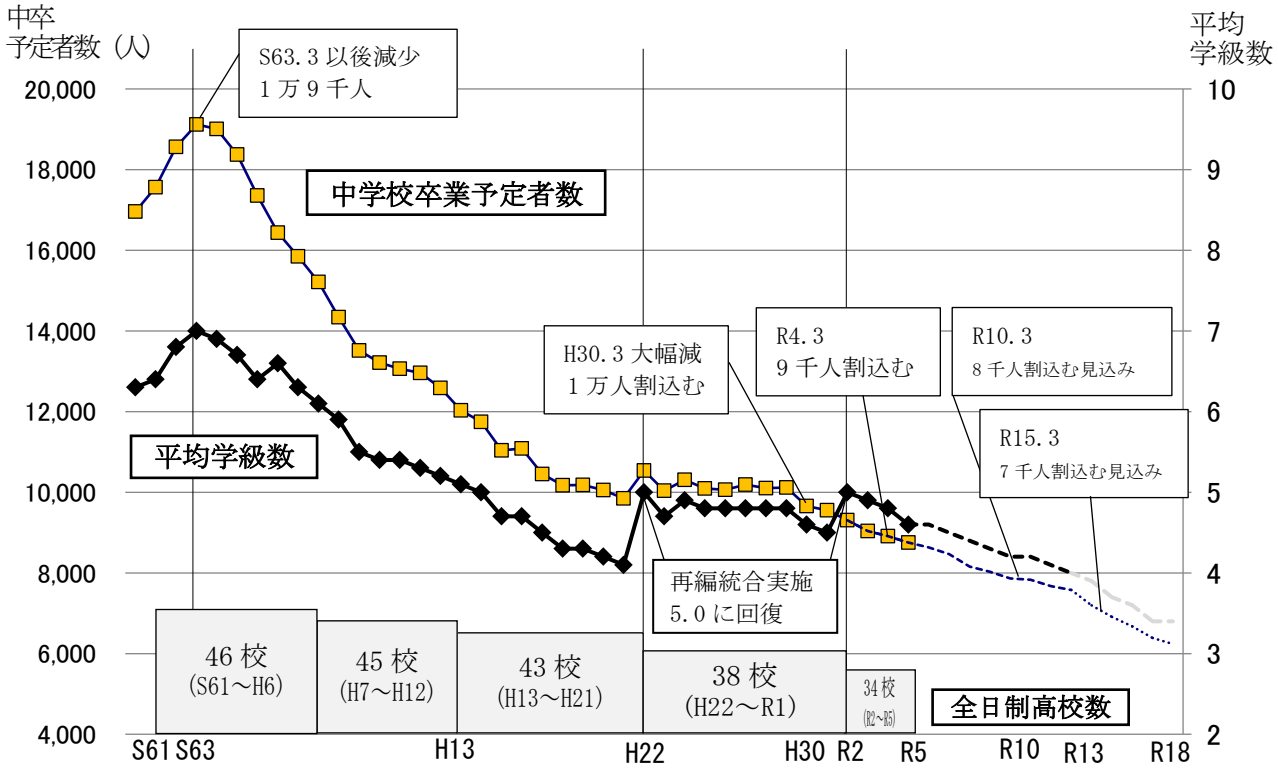
３　本県の中学校卒業予定者数の減少

本県における中学校卒業者数は、昭和63年をピークとして、以後平成21年まで長期にわたって急激に減少し、その後の平成29年までは１万人台で推移してきました。それ以降は、再び急激に減少しており、令和４年には9,000人を、令和10年には8,000人を割り、県の人口調査によれば、令和18年においては、6,200人台と推定されています。これに伴い、県立高校の入学者は減少し続けることが予測されます。

県立高校の募集定員については、富山県公私立高等学校連絡会議（文部省局長通知により昭和55年に設置）における合意に基づく県立高校の生徒受入れ割合（公私比率）を踏まえて設定しているところですが、令和４年２月の合意によって、令和５年度から令和７年度の県立高校の生徒受入れ割合は70.8％となっています。

令和５年の県立高校１学年の県全体の学級数は158学級ですが、今後の生徒数の減少を踏まえ、公私比率を70.8％、１学級当たりの定員を40人と仮定して、今後の学級数を算定すると、令和13年には137学級、令和18年には114学級になると予測されます。また、１学年当たりの平均学級数は、平成21年には4.1学級であったものが、平成22年の高校再編により5.0学級に改善したものの、平成31年には4.5学級となっています。さらに、令和２年の高校再編により再び5.0学級に改善したものの、令和５年には4.6学級となっています。今後、学校数が現在の34校のままであるとした場合、令和14年以降は４学級を割り込むことが見込まれます。

【県立高校（全日制）の学校数と募集定員の推移】



※　全日制高校数は 1 学年を募集している学校数
※　中学校卒業予定者数の算出について、H20 年～R13 年は学校基本調査(各年 5 月 1 日)を基にした生徒数。R14 年～R18 年は県の人口移動調査(R3 年 10 月 1 日)に基づく推定値
※　R6 年以降の平均学級数(学級数÷学校数)は、公私比率を 70.8%と仮定し、学校数を 34 校で維持した場合の見込み

【これまでの平均学級数と令和６年度以降の平均学級数の見込み(学校数を維持した場合)】

年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度
中卒予定者数	10,539	10,039	10,305	10,093	10,063	10,189	10,103	10,116	9,659	9,552	9,305	9,037	8,910	8,752	8,629	8,469	8,155	8,033	7,864	7,834	7,676	7,580
平均学級数	5.0	4.7	4.9	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.6	4.5	5.0	4.9	4.8	4.6	4.6	4.5	4.4	4.3	4.2	4.2	4.1	4.0

※　中学校卒業予定者数の算出について、H22年～R13年は学校基本調査(各年5月1日)を基にした生徒数
※　R6年以降の平均学級数(学級数÷学校数)は、公私比率を70.8%と仮定し、学校数を34校で維持した場合の見込み

４　生徒の多様化

本県における高校等進学率は、過去10年間の平均で99.2%と、全国的にも高い数値となっています。このように、ほとんどの生徒が高校に入学する状況にある中、本県においても能力・適性、興味・関心、進路等の面において多様な生徒が入学するようになっており、多様な課題等への対応が必要となっています。

さらに、「令和の魅力と活力ある県立高校のあり方検討委員会」においても、「様々な考えを持つ人が集まって、それがプラスに働くようなグループとしての活動を重視すべきであること」「外国にルーツを持つ生徒や、特別な支援を必要とする生徒が教室の中にいるということが重要であること」などの意見があり、多様な生徒に対応した学びの充実を図ることが求められています。

第２章　県立高校の学びの改革に向けて

近年、収入や健康といった外形的な価値だけでなく、キャリアなど社会的な立場、周囲の人間関係や地域社会とのつながりなども含めて、自分らしくいきいきと生きられることや主観的な幸福度を重視した「ウェルビーイング※8」の考え方が重視されるようになっています。

第３期富山県教育振興基本計画では、本県の教育の振興を通して、すべての県民がいきいきと自分らしく暮らせる「ウェルビーイングの向上」と、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を目指すこととしています。

予測困難な時代にあっても、自分らしく幸せに生きることができ、社会の一員として社会の形成に主体的に関わっていけるようになるためには、未来を切り拓いていくための確かな資質・能力と意欲、主体的に課題を発見し解決する力や他者と協働する力、自分と他者を尊重し多様な価値観を認め合う態度の育成が重要であり、その実現に向け具体的な取組みを検討していくことが必要です。

県立高校の学びの改革に向けて（概要）

背景　・Society5.0 時代の到来　・技術革新、グローバル化の進展　・少子化の進行

本県の現状と課題
◎生徒一人ひとりの個性を伸ばす魅力ある高校づくり
（ものづくり中核校、探究科学科、総合選択制等の設置）
◎中学卒業予定者数の減少に伴う学級減による小規模校の増加
◎学級減に伴う１学科１学級の職業科への対応
◎多様な生徒へのきめ細かな対応

富山県教育振興基本計画
【３つの横断的取組み】
◎「課題解決型の教育」の展開
◎「ＩＣＴ※9教育」の推進
◎「チーム富山教育」の実現

これまでの取組み

◎授業改善の推進
・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導方法の改善（教師力向上支援事業、教師の学び支援事業）
・課題解決型学習の推進
（とやま新時代創造プロジェクト学習推進事業）

◎ＩＣＴを活用した教育の推進
・１人１台端末の活用
・各校のＩＣＴを活用した授業を公開し、授業実践研究を推進
・「オンライン教育利活用ガイドブック」を作成
・情報通信技術支援員※10の派遣

◎富山型キャリア教育
・社会へ羽ばたく「17 歳の挑戦」
・高校生職業教育プログラム
・キャリア教育アドバイザー配置

◎英語・グローバル教育
・研究拠点校での研究・実践
・各種コンテストの実施
・とやま型スーパーグローバルハイスクール事業
・高等学校生徒海外派遣事業

◎とやまの高校生ライフプラン教育充実事業
◎とやま科学オリンピックの実施
◎ふるさと学習の実施

普通系学科
・生徒の実態を踏まえた選択科目の充実
・少人数指導など個に応じた指導の充実
・地域の課題をテーマにするなどして、課題発見・課題解決能力の育成をねらいとする探究型の学習を推進
・ＳＳＨ※11、ＳＧＨ※12の取組み

総合学科
・キャリア教育の重視（１年次から「産業社会と人間」などで、将来の生き方や進路について考えていく）
・テーマ性をもった選択科目群「系列」の開設などによる多様な教育課程の編成

職業系専門学科
・インターンシップの実施や企業の技術者の招聘等による専門性の高い授業の展開
・とやまの高校生マイスター育成事業
・各種資格の取得に向けた積極的な取組み

定時制・通信制
・多様な生徒に対応したきめ細かな指導
・多部制による弾力的な学びの対応
・スクールカウンセラー※13の配置、教育相談体制の充実

令和の魅力と活力ある県立高校づくりの目指す姿

基本理念

魅力ある高校教育を通した「ウェルビーイング」の向上

～学びたい、学んでよかったと思える高校づくり～

３つの目指す姿

Ⅰ　生徒の可能性を引き出し、自分らしく未来を切り拓いていくための、確かな資質・能力と意欲の育成

Ⅱ　社会の持続的な発展を担うための、主体的に課題を発見し解決する力や他者と協働して解決策を生み出す力の育成

Ⅲ　自己と他者を尊重し、多様な価値観を認め合いながら、よりよい社会を築こうとする態度の育成

令和の魅力と活力ある県立高校づくりに向けた６つの方向性

- Ⅰ　各学校の特色や魅力をさらに深化させるための取組みを重点的に推進
- Ⅱ　地域・大学・企業や学校間等の連携による取組みの推進
- Ⅲ　ＩＣＴの活用による学びの充実の推進
- Ⅳ　グローバルに活躍する生徒の育成の推進
- Ⅴ　魅力と活力ある学校づくりを推進するための教育環境の整備
- Ⅵ　配置や定員、再編・統合等にかかる具体的な検討

【具　体　策】

○魅力と活力ある県立高校づくりに向けた各学科共通の視点

(1) 特色・魅力ある教育課程の実現に向けたカリキュラム・マネジメントの推進
(2) ＩＣＴの効果的な活用による個別最適な学びと協働的な学びの推進
(3) 学びの魅力や特色についての効果的な情報発信
(4) 個別最適な学びや協働的な学び等の教育活動を担う教職員を支援する取組みの推進

○学科ごとの取組み

○様々なタイプの学校・学科等についての研究・検討

○高校再編や学科・コースの見直しなどの基本的な方針についての具体的な検討

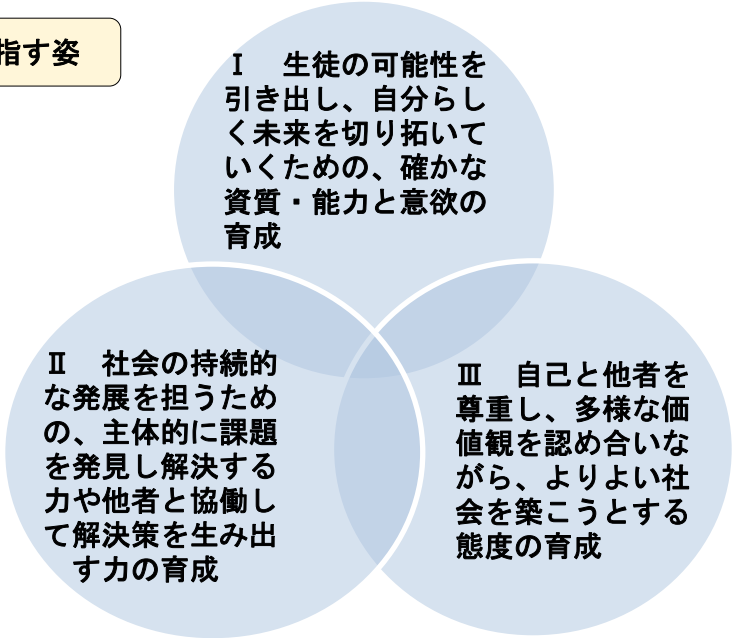
１　令和の魅力と活力ある県立高校づくりの目指す姿

県教育委員会では、県立高校の学びの改革に向けて、「魅力ある高校教育を通した「ウェルビーイング」の向上～学びたい、学んでよかったと思える高校づくり～」を基本理念とし、３つの県立高校づくりの目指す姿を掲げました。これに基づいて学びの改革に取り組んでいくこととしています。

基本理念

魅力ある高校教育を通した「ウェルビーイング」の向上
～学びたい、学んでよかったと思える高校づくり～

３つの目指す姿



２　令和の魅力と活力ある県立高校づくりに向けた６つの方向性

この３つの目指す姿の実現に向けて、次の６つの観点から、具体的な方策について取り組むことが必要です。

Ⅰ
各学校の特色や魅力をさらに深化させるための取組みを重点的に推進

Ⅱ
地域・大学・企業や学校間等の連携による取組みの推進

Ⅲ
ＩＣＴの活用による学びの充実の推進

Ⅳ
グローバルに活躍する生徒の育成の推進

Ⅴ
魅力と活力ある学校づくりを推進するための教育環境の整備

Ⅵ
配置や定員、再編・統合等にかかる具体的な検討

Ⅰ 各学校の特色や魅力をさらに深化させるための取組みを重点的に推進

特色・魅力ある高校づくりの基礎となるものは、各学校における、授業やホームルーム活動、学校行事、生徒会活動、部活動など日常的な教育活動であり、その充実を図ってきています。日常的な教育活動の中心となる授業等における指導の充実として、高校の学習指導要領では、①知識及び技能の習得、②思考力・判断力・表現力等の育成、③学びに向かう力・人間性等の涵養の三つの柱が偏りなく実現されるよう、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うことが示されています。生徒一人ひとりが未来社会を切り拓くことができる必要な資質・能力の育成のための主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業等における指導のより一層の充実や改善とともに、様々な課題を持つ生徒の能力や特性、興味・関心、進路希望等に応じた学びの工夫・支援などの充実が必要です。

そのためには、教員の資質向上のための研修の充実、習熟度別学習や少人数指導など個に応じた指導の充実など、これまで以上に学校の教育力の向上に向けた積極的な取組みが重要です。

また、全県立高校において、スクール・ポリシーなどに基づいたカリキュラム・マネジメントを推進し、課題発見能力・課題解決能力の育成に向けたプロジェクト学習を実施し、文理の枠にとらわれない教科等横断的な学びの実現を図るなど、新しい時代の要請に向けた授業改善等の取組みを一層推進することも重要です。

Ⅱ 地域・大学・企業や学校間等の連携による取組みの推進

学習指導要領では、学んだことを人生や社会に生かそうとする力などを育成し、それを社会で生かせることを目指しており、その実現のため、まずは、生徒たちが社会にはどのような生き方や仕事等があるのかを知ることが大切です。そのためには、生徒が他者と協働しながら、地域社会の一員として必要な資質を養い、地域課題に興味・関心を持って、課題解決に向けて主体的に参画する機会が必要です。地域・大学・企業等との連携を進めることで、優れた知識・技能や社会経験を持つ地域の人材に学びの担い手になってもらうことやボランティア活動、県外企業等の見学やインターンシップ等の体験学習、大学等の見学や体験機会の一層の拡充が図られます。また、大学等における講義・実験やものづくり実習などの拡充、校外における学習成果の単位認定等の拡大を推進することも重要です。

Ⅲ ＩＣＴの活用による学びの充実の推進

総合的な探究の時間や各教科の授業等での学びの深化を図るため、１人１台端末

などのＩＣＴ環境の活用が一層重要となっています。ＤＸ[※14]が進展する中、ＩＣＴを活用した個別最適な学びや協働的な学びを通して、情報活用能力やプレゼンテーション能力などの実践力を高めるなど、これからの時代に必要な資質・能力を育成する必要があります。

Ⅳ グローバルに活躍する生徒の育成の推進

広く世界に目を向け、国際的な視野を有し、未来を自ら切り拓き、富山や全国そして世界を舞台に活躍する生徒を育てるため、探究力、課題解決能力、コミュニケーション能力及び高い英語会話力を育む必要があり、海外研修の充実やＩＣＴ等を活用したオンラインでの交流活動を推進します。

Ⅴ 魅力と活力ある学校づくりを推進するための教育環境の整備

魅力と活力ある学校づくりを推進し、充実した教育活動を展開するための教育環境をハード・ソフト両面から計画的に整備していく必要があります。

生徒の情報活用の可能性を広げ、学習効果の向上に役立つよう、インターネットの接続環境を整え、タブレット型端末を学校内で必要な時に自由に活用できる環境を整える必要があります。

Ⅵ 配置や定員、再編・統合等にかかる具体的な検討

本県では、社会の急激な変化や生徒の価値観・進路意識の多様化が進む一方で、生徒減少に伴う学校の小規模化が進む状況に対応して、県立高校教育の一層の充実を図るために、これまでの成果を十分に踏まえつつ、従来の県立高校における取組みの見直しや、学校の形態・仕組み等の改革を進めてきました。

そうした中で、学習の選択幅をできる限り拡大するなど、生徒一人ひとりの個性を伸ばす魅力ある高校づくりが可能となるよう、新しいタイプの高校の設置の可能性について検討し、「ものづくりの中核となる総合的な工業科高校」や「総合選択制高校」を設置し、また、「思考力や探究力、表現力などの育成をめざす新しいタイプの学科を軸とした学校」として、探究科学科を開設しました。

少子化による学校の小規模化が進む中、県立高校の配置や定員、再編・統合等にかかる具体的な検討を行うとともに、校種間連携や学校・学科間連携などを通して生徒が様々な経験ができる機会の充実を図る視点も含め、新たな学びのための学校の形態・仕組み等の改革を進める必要があります。

３　実効性のある取組みの推進

これからの高校生に求められる能力等を育成するため、前述した６つ（Ⅰ～Ⅵ）の観点に基づく実効性ある適切な取組みを進めていく必要があります。

この取組みに当たっては、第２期富山県教育大綱（令和３年３月）の基本理念や第３期教育振興基本計画（令和４年３月）を踏まえ、各学校の教育活動や学校運営状況等を把握し、学校に対する支援等を行う県教育委員会と、校長のリーダーシップの下に、生徒の実態等に応じた教育活動等を実施する学校とが、それぞれの役割を適切に分担し、連携・協力を図りながら共通の目標達成に向けて取り組むことが必要です。

また、県立高校教育の一層の充実に向けて、より実効性のある取組みを進めていくためには、各学校における教育活動の成果を各学校が検証し、各校の特色、例えば、スクール・ポリシーに基づき教育目標や教育計画、また具体的な取組み内容等をより明確化するとともに、それらを地域や保護者などに公表し、どのような能力等を伸ばし、生徒を育てていくのかを知らせていくことが大切です。

これらのことを踏まえつつ、変化のスピードが従来の予測を越えて速まっている時代にあって、生徒たち一人ひとりが、この急激に変化する社会を生き抜く力をつけるための資質・能力をしっかり身に付けられるよう、５年後、10年後といったスパンで取組みを検証し、見直しをしながら、実効性のあるものにしていく必要があります。

第３章　魅力と活力ある県立高校のあり方

１　魅力と活力ある県立高校づくりに向けた各学科共通の視点

今後の県立高校づくりにおいて、実効性ある取組みを進め、県立高校の役割を確実に果たしていけるよう、各学科に共通した以下の視点に立った学びの改革を推進していく必要があります。

（１）特色・魅力ある教育課程の実現に向けたカリキュラム・マネジメントの推進

令和４年度より、各高等学校が育てたい生徒像に基づいて目指す方向や特色・魅力ある教育の実現に向けた指針として、「三つの方針（スクール・ポリシー）」を公表しています。教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）については、育成を目指す資質・能力に関する方針を達成するために、どのような教育課程を編成し、実施し、学習評価を行うのかを定める基本的な方針となるものとされています。こうしたことを踏まえ、学校全体として、教育内容や時間の適切な配分、教育内容と教育活動に必要な地域の人的・物的資源とを効果的に組み合わせること、実施状況を評価し改善につなげることで特色・魅力ある高校づくりが進むよう教育課程に基づく教育活動の質の向上を図ります。

（２）ＩＣＴの効果的な活用による個別最適な学びと協働的な学びの推進

ＩＣＴ活用は、生徒の知識及び技能の習得だけでなく、思考力・判断力・表現力の育成などを行う際の有効な手段です。各高校では、１人１台端末などＩＣＴ環境の整備により、デジタル教科書やデジタル教材などを活用した個別最適な新しい学びに取り組んでいます。新たな時代を生き抜くために必要な学びの基盤となる資質・能力として、主体的に課題を発見し解決する力や他者と協働して解決策を生み出す力の育成を目指し、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用しながら、情報社会に主体的に参画できるよう、学習活動の一層の充実を図ります。

（３）学びの魅力や特色についての効果的な情報発信

生徒や保護者等にとっては、進路決定の際に、その高校で何ができるのか、学校行事、部活動を含め、その学校で何を学べるのか、どのような力を身に付けることができるのか、将来、どのような進路があるのかなどの情報が必要です。

こうしたことから、オープンハイスクール[※15]や学校説明会だけでなくホームページやパンフレットなどを活用しながら、これまで以上に積極的に各校の特色や魅力を発信することが重要です。

各高校では、令和４年度からスクール・ポリシーを定め、各々の特色を踏まえた取組みを進めています。こうしたことについて、各高校の教育方針や教育活動の様子などを動画配信などの方法も活用しながら、生徒や保護者だけでなく地域に向けて幅広く各校の魅力が伝わるよう、情報発信のさらなる充実を図ります。

（４） 個別最適な学びや協働的な学び等の教育活動を担う教職員を支援する取組みの推進

教職員の資質向上のための研修については、キャリアステージに応じ、知識・技能等の向上を図る研修、教科の専門性向上や生徒指導・相談業務等の様々な分野の資質向上のための研修など、体系的に実施しています。

これらに加え、１人１台端末の環境を活かした効果的な教育を推進するため、各校のＩＣＴを活用した授業の公開による教育実践研究の推進､「オンライン利活用ガイドブック」の作成・ＨＰ掲載による実践の共有化、全県立学校への情報通信技術支援員の派遣によるＩＣＴ活用の支援や校内研修の開催等により、教員のＩＣＴ活用指導力の向上に努めています。

変化の激しい予測困難な時代において、課題を見つけ、主体的に考え、協働して解決策を生み出す能力の育成など、学校に対するニーズが複雑化・多様化する中、新しい時代の個別最適な学びや協働的な学び等に応じたきめ細かな指導力を養うことが必要となっています。このため、社会の変化に応じた研修や学校組織の活性化に向けたマネジメント･人材育成に関する研修等の充実を図るとともに、教職員が主体的・継続的に学び続けることができるような環境整備と適切な支援に努めます。

２　現在の学科構成

高校における学科は、第１に、国語、地理歴史、数学、理科、外国語、保健体育など幅広い分野の基礎教科に関する各学科に共通する各教科を主とする「普通科」、第２に、各学科に共通する各教科を基礎としながらも、農業、工業、理数など特定分野に特化した専門教育を主に行う「専門学科」、第３に、各学科に共通する各教科、及び専門教育に属する教科の両方から、科目を選択して履修することができる「総合学科」の３つに分けられます。

なお、第２の「専門学科」については、各学科に共通する各教科の特定分野に特化した教育を主に行う「普通系専門学科」と、職業教育にかかわる特定教科に特化した教育を主に行う「職業系専門学科」に分けられます。

３　普通系学科と職業系専門学科の割合

昭和63年以降、各学科の定員割合については、普通系学科と職業系専門学科の割合（以下「普職比率」といいます。）が、それぞれ66％程度、34％程度となるように配慮しながら、産業構造の変化や各学科に対する生徒・保護者のニーズなどを踏まえて設定してきました。

総合学科が開設された平成７年以降については、普職比率を、県立高校全日制

の全募集定員から総合学科の募集定員を除いた数に対する割合とした（普通系学科が66％程度、職業系専門学科が34％程度）ことから、全募集定員に占める普通系学科と職業系専門学科の定員割合は、総合学科が開設される前に比べて相対的に低くなってきています。

今後の普職比率については、令和５年度における普通系学科の割合が63.7%となっていることに加え、学級減に伴う１学科１学級の職業系専門学科の対応も課題となっており、新たな学科などの検討が必要となっています。そのため、普通系学科、職業系専門学科（総合学科を除く）の構成割合については、中学生の志願動向や進路希望、各高校の学科構成、県民のニーズをもとに、現在の比率を目安としつつ、柔軟に扱うことも含めて検討を進めます。

４　普通系学科

普通系学科については、普通科と普通系専門学科に分けられます。また、普通系専門学科については、探究的な学習とともに専門性の高い教科の学習を重視する「理数科学科」、「人文社会科学科」（総称して「探究科学科」といいます。）と、国際関係及び外国語に特化した教育を行う「国際科」の３学科があります。また、国の普通科改革により、学際的・複合的な学問分野や新たな学問領域に即した最先端の特色・魅力ある学びに重点的に取り組む「学際領域に関する学科」や現在及び将来の地域社会が有する課題や魅力に着目した実践的な特色・魅力ある学びに重点的に取り組む「地域社会に関する学科」等の設置が可能とされました。

Ａ　普通科及び普通科コース

中学校での学習をさらに発展させ、国語、地理歴史、公民、数学、理科、保健体育、芸術、外国語、家庭、情報などの「各学科に共通する教科・科目」を中心に学びます。進学等に向けた学力向上を図ることを目指しています。

現在、県立高校（全日制）23校に普通科が設置されており、そのうち９校の普通科では、自然科学や人文科学、国際、情報など、生徒の興味・関心に応じた特定分野の科目選択ができるコースを設置（全10コース）し、幅広いニーズに応えられるよう特色ある教育活動を実践しています。

１年次の学習を踏まえ、興味・関心や将来の進路を考え、２年次より文系・理系に分かれて学んでいます。教科の学習や課題解決学習、又、計画的なキャリア教育を通して、各教科の見方・考え方や人生観を育み、大学や短期大学、専門学校等、幅広い進路選択を実現しています。なお、普通科コースの内、富山北部、富山東、呉羽の３校については、入学の段階からコースに所属し、１年次から独自の科目が選択できますが、その他の６校７コースは、２年次からコースに所属することになっています。

〔普通科コースの設置状況〕

入善（自然科学 観光ビジネス）	八尾（福祉）	富山北部（体育）	富山東（自然科学）	富山南（国際）
呉羽（音楽）	大門（情報）	高岡南（人文科学）	福岡（英語）	

※（　　）内はコース名
＿＿＿は1年次から開設

（ア）特色ある取組み

「総合的な探究の時間」における課題解決型学習

各コースの特色ある教育活動

地域・大学・企業等と連携した探究活動、協働学習

・大学や研究機関と連携した探究活動
・地域企業の見学や、職業人による講演

国際的視野の育成

・海外研修(アメリカ合衆国、イギリス等への生徒派遣)

（イ）今後の取組みの視点と目指す方向

特色・魅力をさらに深化させるための取組み

・論理的思考力や問題解決能力の育成に向けたプロジェクト学習の推進
・文理の枠を超えた複合的な課題解決を通して、新たな価値を創造するための資質・能力の育成に向けたＳＴＥＡＭ教育※16の推進
・幅広い学力層に対応したきめ細かな指導の充実

地域・大学・企業や学校間等の連携

・地域や大学、産業界との連携・協働を深化させる積極的な取組みの推進
・インターンシップの実施などキャリア教育のさらなる推進

ＩＣＴの活用による学びの充実

・ＩＣＴの効果的な活用等による個別最適な学びと協働的な学びの推進

配置や定員、再編統合にかかる具体的な検討

・国の普通科改革の動向にも注視しつつ、普通科の魅力化・特色化をさらに進めるため、学科やコースの設置などについての検討
・中学校卒業予定者数の減少に対応しつつ、生徒のニーズ等を踏まえた配置バランスや定員設定等についての検討

Ｂ　理数科学科・人文社会科学科（※総称として探究科学科）

数学や理科に重点を置く「理数科学科」と、国語や地理歴史、公民、英語に重点を置く「人文社会科学科」を設置し、探究的な学習や教科等横断的な学習に取り組み、大学等での研究や実社会での問題解決に活かすことができる能力の育成を目指しています。

ゼミ形式の授業や課題研究等の探究的学習、少人数指導等を通して、知識としての学力だけでなく、論理的思考力や課題発見・解決能力などの育成を目指した教育活動を実践しています。

高い学力、自ら学びを深めるための能力、また、高い志や豊かな人間性など、最先端の研究を行うために必要な資質・能力を養い、大学など高等教育機関への進路選択を実現しています。

現在、探究科学科は３校に設置されています。

（ア）特色ある取組み

探究的学習に重点を置くカリキュラム編成	地域・大学・企業等と連携した探究活動、協働学習	国際的視野の育成
・探究を進めるための基礎学習（１年次・週１時間） ・グループ別課題研究（２年次・週２時間） ・校内課題研究発表会 ・三校合同課題研究発表会	・課題研究ではグループ毎に外部助言者配置 ・地域企業の見学や、職業人による講演	・海外研修（アメリカ合衆国、イギリス等への生徒派遣）

（イ）今後の取組みの視点と目指す方向

特色・魅力をさらに深化させるための取組み
・論理的思考力や問題解決能力の育成に向けたプロジェクト学習の推進 ・知的好奇心を高め、将来の高度な学習に対応できるよう、ゼミ形式の授業により、的確な分析力や判断力、プレゼンテーション能力等を育成する取組みの推進

地域・大学・企業や学校間等の連携	ＩＣＴの活用による学びの充実	配置や定員、再編統合にかかる具体的な検討
・地域や大学、産業界との連携・協働を深化させる積極的な取組みの推進 ・インターンシップの実施などキャリア教育のさらなる推進	・ＩＣＴの効果的な活用等による個別最適な学びと協働的な学びの推進	・中学校卒業予定者数の減少に対応しつつ、生徒のニーズ等を踏まえた配置バランスや定員設定等についての検討

Ｃ　国際科

「各学科に共通する教科・科目」の学習が中心となりますが、特に、外国語や国際理解に関する専門的学習に重点を置いています。英語や中国語、ロシア語などを実践的に学び、国際感覚を身に付け、国際社会で活躍できるコミュニケーション能力の習得を目指しています。

海外への語学研修や友好校からの受入れ等の活動を通して、海外の生徒との交流を活発に行い、異文化を体験する教育活動を実践しています。

語学力の追求や国際関係等の研究を目的とした大学や専門学校への進学などの進路選択を実現しています。

現在、国際科は２校に設置されています。

（ア）特色ある取組み

「総合的な探究の時間」における異文化理解等についての課題解決型学習

地域・大学・企業等と連携した探究活動、協働学習

・大学や研究機関と連携した探究活動
・地域企業の見学や、職業人による講演

国際的視野の育成

・海外研修（オーストラリア、中国、韓国、ロシア等への生徒派遣）
・海外の学校とのオンライン交流
・コミュニケーション能力の向上と異文化理解
・日常的な基礎英語力育成

（イ）今後の取組みの視点と目指す方向

特色・魅力をさらに深化させるための取組み

・論理的思考力や問題解決能力の育成に向けたプロジェクト学習の推進
・主体的・対話的・実践的な活動を通したコミュニケーション能力と語学力向上の推進

地域・大学・企業や学校間等の連携

・地域や大学、産業界との連携・協働を深化させる積極的な取組みの推進
・インターンシップの実施などキャリア教育のさらなる推進

グローバルに活躍する生徒の育成

・海外派遣の充実及びオンラインを活用した海外交流をさらに推進するため、交流先の開拓と交流プログラムの充実

ＩＣＴの活用による学びの充実

・ＩＣＴの効果的な活用等による個別最適な学びと協働的な学びの推進

配置や定員、再編統合にかかる具体的な検討

・中学校卒業予定者数の減少に対応しつつ、生徒のニーズ等を踏まえた配置バランスや定員設定等についての検討

５　総合学科

普通科、専門学科のいずれにも属さない学科であり、普通教科及び専門教科の両方の多様な科目を開設しています。また、科目選択や進路選択に関するガイダンス機能の充実を図り、生徒が興味・関心、能力・適性、進路希望等に基づき履修科目を選択し、学びを深めることを目指しています。

入学年次に履修する「産業社会と人間」において、自己の在り方・生き方や進路について考察し、必要となる教科・科目を選択するなど、教科の学習とともに自らの進路を切り拓く力を育成する教育活動を実践しています。

地域や地元企業等と連携したインターンシップ、就業体験やボランティア体験などの、体験を重視したキャリア教育の推進により、就職や大学進学など多様な進路選択を実現しています。

現在、総合学科は３校に設置されています。

〔総合学科を設置している各学校に設けられた系列〕

小杉	上市	富山いずみ
探究 美術・スポーツ 生活・ビジネス 以上３系列	人文国際、自然科学 グリーン、スポーツ科学 福祉健康、情報ビジネス 以上６系列	人文・社会 自然・情報 生活デザイン 以上３系列

（ア）特色ある取組み

「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」におけるキャリア教育、課題解決型学習	地域・大学・企業等と連携した探究活動、協働学習
・上級学校訪問、社会人班別講話、県外進路研修等の実施 ・課題研究まとめ発表会	・学校外の学修として、大学等の授業の受講、就業体験やボランティア体験による単位の修得が可能 ・インターンシップの実施

（イ）今後の取組みの視点と目指す方向

特色・魅力をさらに深化させるための取組み

・時代の変化等に応じた生徒それぞれの興味・関心、進路指導等に関わる系列等について検証しつつ、地域の特性を生かした系列等の整備についての検討
・系列での学びを通した専門性のさらなる向上と、生徒が自己の興味・関心に応じて主体的に選択して学習できるという特性を生かした課題探究型の学びの充実

地域・大学・企業や学校間等の連携	ＩＣＴの活用による学びの充実	配置や定員、再編統合にかかる具体的な検討
・地域や大学等との連携や外部の専門人材の活用等のさらなる充実 ・地域や民間企業でのフィールドワークを生かした課題解決型の探究学習の推進	・ＩＣＴの効果的な活用等による個別最適な学びと協働的な学びの推進	・全県的な視野に立って、総合学科のある学校の配置バランス、定員設定等の検討

６　職業系専門学科

職業系専門学科については、農業科、水産科、工業科、商業科、家庭科、看護科、福祉科の７学科があります。その内、農業科、水産科、工業科、商業科、家庭科の５学科においては、より専門的な領域に関する学習が行えるよう、特色ある小学科が設けられています。現在、設置されている小学科の種類が最も多いのは工業科であり、18小学科となっています。

〔職業系専門学科に設けられた小学科〕

Ａ 農業科：農業科、生物生産科、園芸デザイン科、バイオ技術科、農業科学科、農業環境科

Ｂ 水産科：海洋科、海洋科学科

Ｃ 工業科：機械科、機械工学科、電子機械科、電子機械工学科、電気科、電気工学科、電子科、情報環境科、金属工学科、建築科、建築工学科、工芸科、デザイン・絵画科、土木環境科、土木科、土木工学科、薬業科、くすり・バイオ科

Ｄ 商業科：商業科、ビジネス科、流通ビジネス科、ビジネスマネジメント科、国際ビジネス科、会計ビジネス科、情報ビジネス科、情報デザイン科

Ｅ 家庭科：生活環境科、生活文化科、生活福祉科

Ｆ 看護科

Ｇ 福祉科

Ａ　農業科

栽培、管理、実験、調査、収穫、加工、販売などの実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業を学ぶことに加え、農業学習を通して、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指しています。

各地域の特色ある農産物を教材とした実習や、地域資源の活用や地域課題の解決について地域・大学等と連携した探究活動、協働学習を実践しています。

農畜産物生産や栽培管理分野への就農、農業法人や農業関連産業への就職、また、食品加工や園芸、造園林産分野などへの学びを生かした就職、さらには農業やそれに関わる生物や環境、バイオテクノロジーなどの学びをさらに深めたいという目的意識を持った進学など、幅広い進路選択を実現しています。

現在、農業科は４校に設置されています。

（ア）特色ある取組み

６次産業化※17、食の安全・安心に関する教育

・ＧＡＰ※19を取り入れた農業業教育
・生産物を利用した新商品の開発

地域・大学・企業等と連携した探究活動、協働学習

・ドジョウや米ぬかを利用した持続可能な稲作の研究、実践
・地域の先進農家等での研修や実習、共同研究
・間伐作業などの林業体験学習

スマート農業※18など最新技術を取り入れた農業教育の充実

・ＧＰＳトラクタや農薬散布ドローン等の研修
・バイオ技術によるサクラ新品種の保護・増殖

学校農業クラブ活動による地域活動や各種競技会等の参加

・プロジェクト発表会、意見発表会での成果発表
・代議員会による他校、他県クラブ員との連携、共同研究

各種資格の取得に向けた積極的な取組み

・全国農業高等学校長協会のアグリマイスター顕彰制度※20

農業の魅力発信の取組み

・学校生産物の販売や幼・小・中学校に向けた農業体験活動や特別授業

（イ）今後の取組みの視点と目指す方向

特色・魅力をさらに深化させるための取組み

◇時代のニーズを取り入れた農業教育

・農業の意義を理解し、農業学習に関する興味・関心を高め、意欲的に農業の担い手を目指す生徒の育成
・６次産業化や関連産業に寄与する生徒の育成
・地域や農業における課題の発見からその解決を図り、新たな価値を創造する取組みの実践

◇課題解決能力や職業観・倫理観の育成

・ＧＡＰ・ＨＡＣＣＰ※21を取り入れ、安全、安心な農業生産、管理など、持続可能で望ましい農業経営を実践する生徒の育成
・地域課題の解決への取組みを通して、将来の地域リーダーとなり得る生徒の育成

◇学校、学科の枠を越えた連携による学びの深化

◇農業のスペシャリスト、アグリマイスターなどの目標を定めた研究や資格取得、学習の推進

地域・大学・企業や学校間等の連携

・地域課題解決に向けた調査・研究を通して、課題発見、計画立案、実践、分析・改善のサイクルを回し、成功や失敗を重ねるキャリアの蓄積

ＩＣＴの活用による学びの充実

・ＩＣＴの効果的な活用等による個別最適な学びと協働的な学びの推進
・スマート農業機器を利用、活用できる生徒の育成

配置や定員、再編統合にかかる具体的な検討

・中学校卒業予定者数の減少に対応しつつ、生徒、産業界のニーズ等を踏まえた配置バランスや定員設定等の検討

Ｂ　水産科

海洋生物の栽培、管理、調査、加工、販売など、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、水産を学ぶことに加え、水産学習を通し職業人として必要な資質・能力を育成することを目指しています。

豊かで美しい富山湾を教室・教材とした実習や、地域・大学等と連携した探究活動、協働学習を実践しています。

水産物の漁獲・栽培管理など漁業分野への就職、水産物の加工や水産加工品の品質管理･衛生管理などの水産関連産業への就職､船舶や流通分野などへの就職、さらには水産資源増殖分野など水産の学びをさらに深めたいという目的意識を持った進学など、幅広い進路選択を実現しています。

現在、水産科は２校に設置されています。

（ア）特色ある取組み

海洋環境保全、持続的な海洋資源の管理、海洋の多面的利用に関する取組み

・ビーチクリーンアップ活動、漂着ゴミの調査・研究
・マイクロプラスチックの集散状況及び場所の特定、形状や種類の特定や漂着に関する実験の実施

安全衛生管理に関する取組み

・水産加工品製造におけるＨＡＣＣＰの考え方を取り入れた食品衛生管理の実践

地域・大学・企業等と連携した探究活動、協働学習

・水産物の安定供給や付加価値向上に関する取組み（サクラマスの栽培漁業に加え、その後の製品化や販売など地域産業発展に資する取組み）

急速な技術革新への対応

・水中ドローン活用に関する研修会の実施

（イ）今後の取組みの視点と目指す方向

特色・魅力をさらに深化させるための取組み

◇時代のニーズを取り入れた水産教育

・水産業の意義を理解し、水産学習に関する興味・関心を高める魅力発信の一層の推進
・６次産業化や関連産業に寄与する生徒の育成
・環境保全型の水産業に関する課題解決型の研究、実践
・未利用魚に新たな付加価値を付けるＳＤＧｓ[※22]の実践
・ライブコマース[※23]など、新しい販売形態の取組み

◇課題解決能力や職業観・倫理観の育成

・安全、安心な漁場環境の保全、漁業生産、食品衛生管理など、持続可能で望ましい水産経営の実践と生徒の育成

◇学校、学科の枠を越えた連携による学びの深化

◇水産のスペシャリストに繋がる目標を定めた研究や資格取得、学習の推進

地域・大学・企業や学校間等の連携

・地域課題の解決に向けた調査・研究を通して、課題発見、計画立案、実践、分析・改善のサイクルを回し、成功や失敗を重ねるキャリアの蓄積

ＩＣＴの活用による学びの充実

・ＩＣＴの効果的な活用等による個別最適な学びと協働的な学びの推進

配置や定員、再編統合にかかる具体的な検討

・中学校卒業予定者数の減少に対応しつつ、生徒、産業界のニーズ等を踏まえた配置バランスや定員設定等の検討

Ｃ　工業科

工業生産の高度化、生産工程の情報化、持続可能な社会の構築などのものづくりの視点を持ち、安全で安心な付加価値の高い製品や構造物を創造することなど、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指しています。

本県の特徴を踏まえ、ものづくりに関する基礎的・基本的な知識や技術、技能を身に付けるとともに、より専門性を高める科目・実習項目の設定や専門講師招聘、地域連携などにより、探究活動・協働学習を実践しています。

実習、課題研究、現場見学、インターンシップ、専門講師招聘、地域連携・協働的な活動など、様々な学習場面から適性・進路を考えさせ、工業関連企業への就職（就職者の多くが県内の企業等に就職し、地域産業を支え活躍しています）、より専門性を高める大学や専門学校等への進学など、幅広い進路選択を実現しています。

現在、工業科は７校に設置されています。

（ア）特色ある取組み

ものづくり人材の育成

- 他科との知識や技術の共有、地域の専門人材の招聘、課題研究などを通して、ものづくりに必要な総合力を身に付けるための学校設定科目「ものづくり学」を開設
- ものづくり技術・技能および発信力の向上に資する工業技術論文発表大会（ミラコン）やロボット競技大会等の各種大会の開催、全国大会への参加

各種資格の取得に向けた積極的な取組み

- 全国工業高等学校長協会のジュニアマイスター顕彰制度※24
- 熟練技能者による「出前講座」（職業能力開発協会）

課題解決型学習

- 地域環境の水質・大気などに関する調査・研究・除雪作業負担軽減に関するアシスト装置の研究開発
- 文字を書くことを支援する筆記用投影装置の研究開発
- 県産原料を使ったヘアオイルの開発・販売
- 県創業支援センターと創業・移住促進住宅が一体となった施設「ＳＣＯＰ ＴＯＹＡＭＡ（スコップトヤマ）」開所に向けた取組み
- 土木系学科でのドローン測量と３Ｄプリンタを融合した調査・研究

地域・大学・企業等と連携した探究活動、協働学習

- 企業等の専門家による講義、ワークショップ
- 企業との共同による商品開発
- 鋳造、螺鈿など伝統産業に関わる地域イベントに参画
- 木材加工やロボット製作など小中学生向け「ものづくり教室」の開催
- 企業との連携によるローカル５Ｇ※25を活用したＤＸ推進
- 地域フェア出品や「おもちゃの病院」など地域貢献活動
- 間伐作業などの林業体験学習

（イ）今後の取組みの視点と目指す方向

特色・魅力をさらに深化させるための取組み

- 実践的・体験的な学習活動のさらなる推進
- 産業の振興や社会貢献に、主体的、協働的に取り組む態度の育成
- 技術革新や技術の高度化に対応したものづくり教育の推進
- 他学科や工業科学科間（機械系・電気系・建築系・土木系・薬系・美術工芸系・化学系など）との横断的な課題解決型学習の模索と推進
- ＳＤＧｓと関連した取組みの推進
- 身体的、精神的、社会的安全教育の推進

地域・大学・企業や学校間等の連携

- 地域や産業界等との連携・交流や就業体験活動の積極的な導入
  （工業教育振興会を軸として）
- ものづくりを中心とした地域課題解決による自己有用感の醸成および課題解決型学習の深化

ＩＣＴの活用による学びの充実

- デジタル技術を活用できる能力の育成
- ３Ｄプリンタ等を活用した最先端の職業教育を行う「スマート専門高校※26」の実現
- ＤＸ等に対応した地域の産業界を牽引する生徒の育成
- 「リアル」×「デジタル」の最適な組合せによる創造的な学びの研究、実践の推進

配置や定員、再編統合にかかる具体的な検討

- 社会の変化に応じた新たな学科やコースへの改編などについての検討
- 中学校卒業予定者数の減少に対応しつつ、生徒、産業界のニーズ等を踏まえた配置バランスや定員設定等の検討

Ｄ　商業科

地域の特色や特産品を生かした商品やサービスの企画・提案など、ビジネスの実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスの動向を捉えて、柔軟に知識・技術の変化に対応できる生徒の育成を目指しています。

将来のスペシャリストを育成するための専門性の基礎が身に付けられる学習や、地域を創造する探究活動、市と連携した協働学習を実践しています。

マーケティング、経済、会計、情報処理等ビジネスの知識や技術、コミュニケーション力を生かした就職や経済、経営、商学、法律等商業の学びを更に深めたいという目的意識を持った進学など、幅広い進路選択を実現しています。

現在、商業科は７校に設置されています。

（ア）特色ある取組み

起業マインドの育成

・模擬株式会社や学校デパートの運営

地域の特産品や特色を生かした商品開発等

・滑川海洋深層水塩ラーメン
・氷見牛メンチカツバーガー
・富山ライトレール車両ラッピングデザイン

地域・大学・企業等と連携した探究活動、協働学習

・富山市観光アプリとタイアップしたＶＲ体験企画
・地域創造研究「ミツバチプロジェクト」の実施
・デザイン思考を活用した商品の企画提案

観光ビジネス

・高校生観光ガイド（勝興寺・金屋町・古城公園等）
・氷見市観光提案Ｗｅｂページの作成

ＤＸを主体的に行える人材の育成

・デジタルマーケティング※27を活用した企画立案、ビジネスマネジメント、プログラマーの育成

国際交流

・台湾修学旅行（台湾姉妹校とのオンライン交流）

高度な資格取得に向けた積極的な取組み

（イ）今後の取組みの視点と目指す方向

特色・魅力をさらに深化させるための取組み

・ＶＵＣＡ時代※28における社会のＤＸの進展、経済のグローバル化、観光立国の流れなどを踏まえた事例と実践による学びの一層の充実

地域・大学・企業や学校間等の連携

・地域社会の健全で持続的な発展を担う職業人の育成
・他学科と併設された学校について、学科間連携の推進

ＩＣＴの活用による学びの充実

・ＩＣＴの効果的な活用等による個別最適な学びと協働的な学びの推進

配置や定員、再編統合にかかる具体的な検討

・社会の変化に応じた新たな学科やコースへの改編などについての検討
・中学校卒業予定者数の減少に対応しつつ、生徒、産業界のニーズ等を踏まえた配置バランスや定員設定等の検討

Ｅ　家庭科

家族・家庭、衣食住、消費や環境など、家庭生活の様々な事象の実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、専門的な知識・技術の向上や課題解決能力の伸長を図るとともに、「生活産業のスペシャリスト」として、地域に貢献できる生徒の育成を目指しています。

調理・服飾・保育・福祉など家庭や社会で役立つ学習を幅広く展開し、外部人材による授業や校外学習など、地域の人的・物的資源を活用しながら、地域・企業等と連携した探究活動、協働学習を実践しています。

１年次から卒業後の進路に向けて生徒の意識を高め、家庭に関する多くの選択科目や多職種の外部講師による特別授業を開設するなど、衣食住や保育、福祉等の生活産業や関連する職業への就職や進学を中心とした幅広い進路選択を実現しています。

現在、家庭科は３校に設置されています。

（ア）特色ある取組み

専門的な知識・技術の向上を図る取組み

- 主体的な職業選択の能力や異世代とのコミュニケーション力の向上を図ることを目的とした保育実習や介護実習等の実施
- 産業界・大学講師等による生活産業の継承・創造を目的とした実習や最新の介護技術体験の実施
- 介護職員初任者研修の受講

地域・大学・企業等と連携した探究活動、協働学習

- 学校家庭クラブ活動の積極的な実施
- 社会課題解決に向けた、社会福祉協議会による福祉プログラムの立案過程への参画
- 地元のＮＰＯ法人等と連携したＳＤＧｓへの取組み
- 地域の子どもを対象とした食育推進活動
- 地元の飲食店等と連携した地元食材・廃棄食材をを用いたメニューの考案・限定販売
- 地域の専門技術者を活用し、自分でデザインしたドレスの製作及びファッションショーの実施
- 企業等と連携した、生活者の視点からの防災対策の検討

各種資格の取得に向けた積極的な取組み

（イ）今後の取組みの視点と目指す方向

特色・魅力をさらに深化させるための取組み

- 実践的・体験的な学習活動をより一層重視し、科学技術の進展等、時代に対応した専門的知識・技術の向上・定着
- 少子高齢化や福祉、食育、ライフスタイルの多様化等の様々な課題に対応できるよう、課題解決能力を育成するための教育内容の充実

地域・大学・企業や学校間等の連携

- 地域の産業界や教育機関、自治体等との連携を強化し、社会のニーズに対応した学習の充実やＳＤＧｓの取組み
- 地域の福祉等の社会施設との交流を通して多様な視点を学び、福祉マインド等の豊かな人間性の育成
- 他学科や学校間と連携を図ることで各専門学科の特徴を生かし、互いの学習を深める取組み

ＩＣＴの活用による学びの充実

- ＩＣＴの効果的な活用等による個別最適な学びと協働的な学びの推進

配置や定員、再編統合にかかる具体的な検討

- 社会の変化に応じた新たな学科やコースへの改編などについての検討
- 中学校卒業予定者数の減少に対応しつつ、生徒、産業界のニーズ等を踏まえた配置バランスや定員設定等の検討

Ｆ　看護科

従来の病院完結型医療から地域完結型医療への移行に伴う看護職の役割の多様化・高度化に対応するための実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、高い専門性に裏付けられた看護実践能力と、多様な人材と信頼関係を築くことができる豊かな人間性を有する人材の育成を目指しています。

地元の医療機関等と連携した充実した臨地実習や、最新のシミュレータ※29等を用いた実習を通して、地域・大学・企業等と連携した探究活動、協働学習を実践しています。

令和元年度から看護師国家試験合格率100％を３年連続で達成しています。例年、地元の医療機関への就職率が高く、地域医療を支える学校となっています。看護系大学への進学にも対応しており、生徒の希望に応じた進路選択を実現しています。

現在、看護科は１校に設置されています。

（ア）特色ある取組み

５年一貫教育のメリットを生かした、系統的で段階を踏まえた教育課程

- 最初の３年間で看護科目の基礎・基本をしっかりと学んだ後に、専攻科の２年間では専門性の高い学習の充実
- 看護師国家試験の合格に向けた学習の充実

地域・大学・企業等と連携した探究活動、協働学習

- 地元の医療機関、特別養護老人ホーム、保育所などでの臨地実習の実施
- 大学教授や現役医師など、専門家による講義の実施
- 最新のシミュレータを導入した校内実習の実施

豊かな人間性の育成

- 「特別養護老人ホーム」の夏祭りボランティア活動の実施
- 「富山マラソン」や「災害訓練」など校外活動への参加

（イ）今後の取組みの視点と目指す方向

特色・魅力をさらに深化させるための取組み

◇最新の医療教材を用いた学習活動の充実

- シミュレータ等最新の医療教材を用いた実習を充実させることで、より医療現場に近い学習の機会を増やすことによる看護実践能力の育成

地域・大学・企業や学校間等の連携

- 地域の医療機関との連携を深め、臨地実習のさらなる充実を図るとともに、卒業後の医療現場で役立つ看護実践能力の育成
- 臨地実習先の多様化を図り、様々な職種の人々との協働的な経験を通したコミュニケーション能力や豊かな人間性の育成
- 地元での高い就職率を維持し、地域医療に貢献する生徒を継続して養成する取組み

ＩＣＴの活用による学びの充実

- クラウドサービス等を利用して生徒間で学習の様子や成果を共有し、生徒同士で互いに学び合う姿勢の育成

配置や定員、再編統合にかかる具体的な検討

- 県内の高等教育機関において、看護教育課程が整備されていることも勘案した定員設定の検討

Ｇ　福祉科

高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉などの専門的知識と技術習得のための実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、豊かな人間性を育み、社会福祉や介護福祉に貢献する生徒の育成を目指しています。

大学の講師等などの専門家による講義、地元の医療・福祉機関や地域活動などにおける演習・実習を通して、地域・大学・企業等と連携した探究活動、協働学習など、様々な福祉について学習を深める取組みを実践しています。

平成29年度から介護福祉士国家試験合格率100％を５年連続で達成しています。多くは県内の高齢者施設への就職や福祉系大学への進学を行っており、地元の介護・福祉を支える学校となっています。生徒の希望に沿った進路選択を実現しています。

現在、福祉科は１校に設置されています。

（ア）特色ある取組み

専門的な知識・技術の向上を図る取組み	地域・大学・企業等と連携した探究活動、協働学習
・福祉に関する課題を設定し、協働して分析・考察・討論等を行うといった主体的で協働的な学習の充実 ・介護福祉士国家試験の合格に向けた学習の充実	・福祉の専門職や大学の講師等による特別授業の積極的な実施 ・福祉施設と連携し、介護実習を実施 ・高齢者施設に加え、障害者福祉施設やＮＰＯ法人等への活発なボランティア活動の実施 ・福祉科生徒と卒業生が語る「福祉の魅力」の動画を作成し、地域へ発信

（イ）今後の取組みの視点と目指す方向

特色・魅力をさらに深化させるための取組み

◇時代の変化に対応できる介護福祉士の育成

・介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応した生徒の育成
・多様な価値観を受け入れ、グローバルな広い視野と積極性を持った介護職のリーダーの育成
・多職種協働やチームケアをより一層意識した協働的な課題解決型学習のさらなる充実

地域・大学・企業や学校間等の連携	ＩＣＴの活用による学びの充実	配置や定員、再編統合にかかる具体的な検討
・福祉施設等との連携を強化し、さらなる地域交流の充実を通して、地域を支える介護人材の育成 ・他学科と連携した福祉用具の開発や県外福祉科高校との交流を通した学習の深化	・福祉・介護の場におけるＩＣＴの進展への対応のための学習内容の充実（福祉用具や介護ロボットなど）	・県内の高等教育機関において、介護福祉教育課程が整備されていることも勘案した定員設定の検討

7　定時制・通信制

小・中学校において不登校経験をもつ生徒、高校を中途退学した生徒、大きな集団での教育になじめない生徒等、多様な経歴、価値観をもつ生徒が在籍しており、働きながら学ぶかつての定時制のイメージとは様変わりをしています。そういった生徒の学びの場として、定時制・通信制高校の重要性も高まっています。

また、近年、広域通信制高校へ入学する生徒が増加傾向にあり、ニーズを調査しながら、誰一人取り残さない、多様な生徒に対応できるような支援が必要です。

現在、定時制・通信制の学校については、定時制のみを設置する学校は４校、全日制と定時制を併置する学校は１校、定時制と通信制を併置する学校は１校で、合わせて６校設置されています。定時制の募集定員については、普通科約480人、国際科約40人、農業科約40人、工業科約120人（この内約40名は、指定された技能教育施設の在籍者対象）、商業科約120人、家庭科約160人で、合わせて約960人です。通信制の募集定員については、普通科、看護科を合わせて約300人です。（看護科は、指定された技能教育施設の在籍者対象）

（ア）特色ある取組み

- 昼間単位制Ⅰ部、昼間単位制Ⅱ部、夜間単位制の３部が設置されている定時制高校では、午前から夜間に至るまで常時科目を開設し、生徒のペースにあわせて時間割を作成し、必要な科目を学ぶことができる多部制※30の導入
- 定時制課程は、通常、４年間の修業期間を必要とするが、他部での単位修得（他部受講）や定通併修制度の活用などにより３年間での卒業が可能
- 本県の通信制高校では、レポートの添削指導のほか、月２回の授業（面接指導）の実施

（イ）今後の取組みの視点と目指す方向

- 多様な生徒に対応した習熟度別などのクラス編成による授業の推進
- 多様な生徒に対応した学び直しもできる教育課程の推進
- 基礎・基本の学力向上への一層の取組みと探究活動など主体的・対話的で深い学びにつながる取組みの推進
- 通級指導の充実
- スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー※31の専門的な指導員を積極的に活用した生徒支援体制の推進
- ジョブサポートティーチャー※32による就職指導のさらなる充実
- 定時制・通信制高校の生徒の状況や、多様な学習ニーズ、地域の実状等を勘案し、多様な生徒に対応した教育を確保する観点から、配置することが望ましい。その際、多様な生徒に対応した教育の一層の充実と中学生や保護者等への取組みの周知が望まれる。

８　様々なタイプの学校・学科など

これまでも、生徒の能力・適性、興味・関心、進路等が多様化する中、高校教育においては、従前の教育活動の充実を図るとともに、学習の選択幅をできる限り拡大するなど､生徒一人ひとりの個性を伸ばす魅力ある高校づくりが可能となるよう、様々なタイプの学校や学科の設置を実施してきました。

引き続き、全国の状況を参考にしながら、県立高校における取組みの見直しや、学校の形態・仕組み等を検討する必要があります。

（１）　中高一貫教育校

教育活動全般を通した全人教育を目標とし、６年間の継続的、計画的な教育活動を行う中高一貫教育校は、多くの都道府県で設置されており、現在、公立中高一貫教育校がない県は、富山県を含め２県だけになっています。

【中高一貫教育の実施形態】

① 中等教育学校

・１つの学校として、一体的に中高一貫教育を行うもの

・前期課程は中学校の基準を、後期課程は高等学校の基準を準用

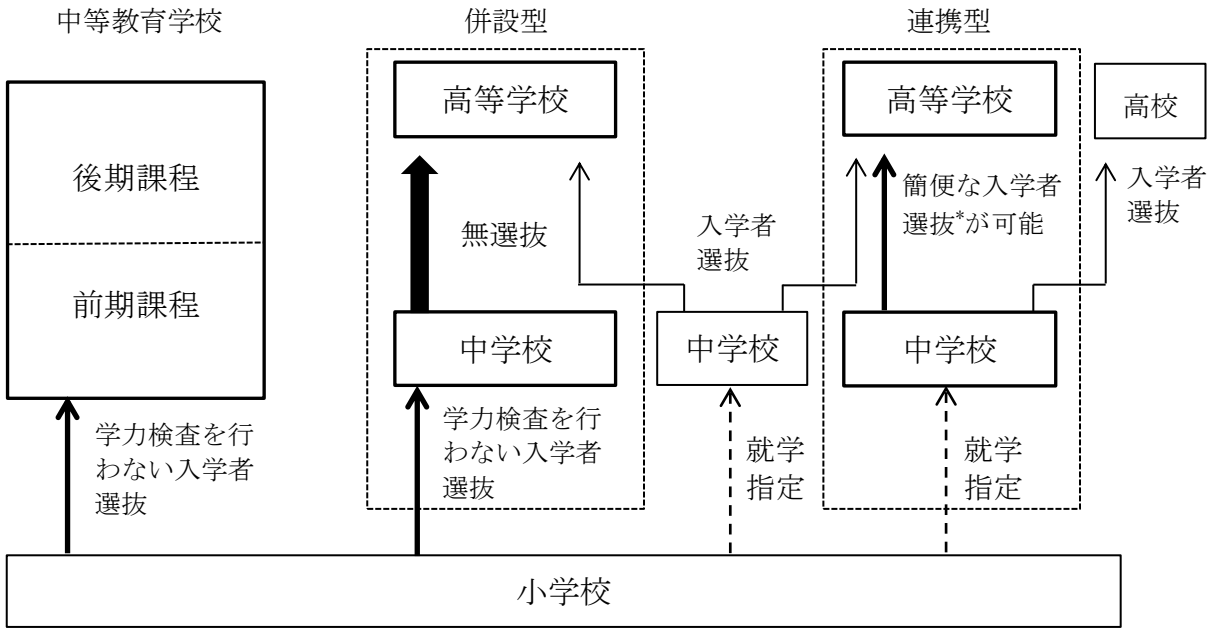
② 併設型の中学校・高等学校

・高等学校入学者選抜を行わずに、同一の設置者による中学校と高等学校を接続

③ 連携型の中学校・高等学校

・市町村立中学校と都道府県立高等学校など、異なる設置者間でも実施可能な形態で、中学校と高等学校が教育課程の編成や教員・生徒間交流等で連携

［公立の場合］



*調査書及び学力検査の成績以外の資料による選抜

社会を変革するリーダーの育成には全人格的な教育が必要との観点から、設置に積極的な意見があります。一方で、市町村立中学校の学級編制等への影響から慎重に考えるべきとの指摘があることから、市町村教育委員会を含めた関係機関と協議しながら、議論を進める必要があります。

（２） 国際バカロレア（ＩＢ）認定校

国際バカロレア(ＩＢ：International Baccalaureate)とは、課題論文、批判的思考の探究等の特色的なカリキュラム、双方向・協働型授業により、グローバル化に対応した素養・能力を育成する教育プログラムです。高校レベルのディプロマ・プログラム（ＤＰ）では、国際的に通用する大学入学資格（ＩＢ資格）が取得可能であり、世界の大学入学者選抜で広く活用されています。未来投資戦略2018(2018年６月閣議決定)において、ＩＢ認定校等を2020年度までに200校以上にするという目標(2019年７月現在146校)を掲げています。

現在(令和４年度)、全国の公立高校で国際バカロレアを導入しているのは９校あります。

国際バカロレアについては、グローバル人材を育成するための有効な方策の一つであり、生徒の選択肢が広がり、国内外への進路の多様化に途を開くという利点があります。一方で、教師と生徒双方に高い外国語能力が求められ、高度な指導ができる教員の確保が難しくカリキュラム開発等に時間がかかるなどの課題もあります。

グローバルな視点を持ち、多様な人々と協働し、課題を発見し、問題解決をしていくという機会があることは重要です。一方で、日本の学習指導要領とのマッチングや英語の人材の確保、エキスパートの招聘、予算の創出等の課題が多いことも踏まえて、設置によるメリットとデメリットを精査するなど、研究を進める必要があります。

（３） 全国募集

全国募集については、特色のある学科・コースにおいて、県外からの受検者に対して県外枠を設定し、意欲ある学生を全国から募集をしている都道府県もあります。例えば、島根県で実施している「しまね留学」では、大都市圏の生徒と地元生が交流することで「刺激を受けて学習意欲が高まった」、「外からの視点に触れることで地域の新たな魅力に気付いた」など、教育上もよい影響があった事例が報告されています。また、高校生に限らず地域の転出抑制や転入増加も促すといった調査結果も報告されています。

なお、全国募集の先行事例を見ると、生徒単独の移住を前提とした受入れを行っている例もありますが、生徒受入れの宿泊施設や生徒の食事など日常生活の世話をする人材や体制、経費等の課題があります。また、高校と地域とをつなぐコーディネーターも配置されており、これらの人材配置や生徒募集に継続的な費用が必要となることから地域の協力も不可欠です。

県外生に対して、寄宿舎または地域と連携した宿泊施設を利用可能とする受入れ体制の構築などを検討する必要があります。

（４） 多様な生徒への対応

生徒一人ひとりの特性等に応じて、生徒が主体的に学習に取り組み、基礎的・基本的な学習内容を身に付け、社会の変化に対応できるよう、途切れなく生涯にわたって学び続けることができる力を育成する必要があります。

小・中学校において不登校経験をもつ生徒、高校を中途退学した生徒、大きな集団での教育になじめない生徒、発達障害を含む障害のある生徒、高校において日本語指導が必要な生徒等、多様な経歴、価値観等をもつ生徒に対応する学びの支援について検討する必要があります。

また、こうした学びの支援について、生徒や保護者等に向けて、その高校で何ができるのか、その学校で何を学べるのか、どのような力を身に付けることができるのか、将来、どのような進路があるのかなどの情報発信をしていく必要もあります。

第４章　県立高校の規模と配置

本県においては、今後の中学校卒業予定者数の大幅な減少に伴い、県立高校の学級減による小規模校の増加が見込まれることから、学習活動、学校行事、部活動等の面での影響が喫緊の課題となってきています。

今後求められる県立高校教育の一層の充実を図るため、県立高校の望ましい規模や配置など生徒の学習環境の整備について、検討することが求められています。

１　学級編制等

（１）　募集定員

県立高校の募集定員については、本県高校教育における県立高校と私立高校の役割等を十分に踏まえるとともに、互いに協調して本県高校教育の一層の充実を図るという観点から、これまで富山県公私立高等学校連絡会議における合意に基づく県立高校の生徒受入れ割合(公私比率)を決定してきました。

現在、令和５年度から７年度までの県立高校全日制の生徒受入れ割合は、令和４年２月合意によって、中学校卒業予定者数の70.8%となっています。

今後も同会議における合意を踏まえ、それを尊重しつつ、県立高校の募集定員等について決定していく必要があります。

（２）　学級定員

公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律では､｢全日制の課程又は定時制の課程における１学級の生徒の数は、40人を標準とする｣とされています。これに基づき、１学級の生徒数は40人を標準とし、生徒の学習ニーズや進路に対応した多様な選択授業や学習内容の定着を図るための習熟度別学習を実施するなど、学科等の特色を生かすための少人数指導ができるよう、引き続き創意工夫に努めます。

（３）　学区

現行の県立全日制高校の通学区域は、平成19年の県立学校教育振興計画基本計画や平成28年の県立学校整備のあり方等に関する報告書により、普通科以外の学科については県下一円、普通科は居住地区及び隣接区域とされてきました。

今後、通学区域については、本検討委員会や総合教育会議の議論に基づき、教育環境や社会情勢の変化を踏まえつつ、見直しを含めて、検討を進めます。

また、学級編制を判断する上での学区の取扱いについては、生徒のニーズのみならず、４学区を基本としつつ、地域の均衡ある学びの確保を踏まえて検討を進めます。

２　県立高校整備等

（１）　令和２年度再編統合に係る計画について

県立高校の令和２年度の再編統合は、以下に示すように、「県立高校再編の実施方針(平成 30 年２月５日)」において、中学校卒業予定者数が平成 30 年度には１万人を割り、ピーク時の昭和 63 年度に約２万人であった卒業生の半数に減少し、さらに平成 34 年度（令和４年度）には９千人を割り込むなど大幅な減少が見込まれる中、引き続き中学生に幅広い選択肢を確保し、本県の高校教育を充実するため、進めるものとされました。こうしたことを踏まえ、県立高校を１学年４から８学級とすることを目指し、一定の学校規模を確保することや学習活動や部活動の充実に当たっては、魅力ある教育内容を取り入れるなど、新たな特徴を明確にしていくとともに、新しいカリキュラムや特色ある部活動を実施するための教育環境の整備が必要であることとされました。再編の進め方については、平成 30 年からの生徒数の減少や、それ以降の平成 32 年（令和２年）からの急減を十分に踏まえながら、段階的かつ着実に進めることが望ましいとされました。

➢　再編計画における再編基準等　－「県立学校整備のあり方等に関する報告書」(H28.4)　－

再編基準については、次のとおりとすることが望ましい。

・１学年４学級未満又は 160 人未満の規模の学校については、再編統合の検討の対象とする。その際、１学年３学級未満又は 120 人未満など極めて規模の小さい学校から検討する。

・全県的な視野から特色ある教育活動の展開が期待できるなど特別な事情（職業科単独校、地理的な制約）がある場合は、対象としない。

・生徒の通学の利便性など教育条件に配慮し、再編統合による生徒への影響が極力少なくなるよう、より近い距離にある学校から再編統合の検討の対象とする。

➢　今後の再編基準・再編数　－「県立高校再編の実施方針」(H30.2.5)－

再編統合は、現在の小学校１年生が高校に入学する平成 38 年度(令和８年度)を見通して実施することとし、平成 39 年度（令和９年度）以降の対応については、中学校卒業予定者数の推移等を踏まえ別途協議することとする。

（２）令和２年度再編統合校（４校）の状況

【 入善高校 】普通科と職業系専門学科を併設する総合制高校

（令和２年に泊高校と入善高校を再編統合）

ア　学科構成

学　　科	普通科	農業科	合　計
募集定員	160 名 （４学級）	30 名 （１学級）	190 名 （５学級）

※令和２年開校時の募集定員

○再編による変化

R1		学級数	定員
泊	普通科	3	120
	観光ﾋﾞｼﾞﾈｽｺｰｽ	1	40
入善	普通科	3	120
	自然科学ｺｰｽ	1	40
	農業科	1	30

（7学級270名）

R2～		学級数	定員
(新)入善	普通科	4	160
	観光ﾋﾞｼﾞﾈｽｺｰｽ	1	40
	自然科学ｺｰｽ	1	40
	農業科	1	30

（5学級190名）

イ　目指す姿

◎地域の持続的発展に貢献する人材を育てます
　○普通科…一人ひとりの能力・適性・進路希望に合わせて適切な教育を行います
　　・観光ビジネスコース…地域を学ぶだけでなく、地域で学ぶ
　　・自然科学コース…智を求め、地に生きる。教科書を越えた学びがここにある
　○農業科…夢心耕する農業科　～自然に学び　心を耕し　夢を実現する～

ウ　「魅力ある学校づくりのための仕組み」と実施状況

①　生徒の進路希望や興味・関心などに応じて、普通科の生徒が農業科の専門科目を学習し、農業科の生徒が普通科の科目を学習することができる仕組み

＜実施状況＞
・３年次８科目から可能な科目を選択
　普通科目…実践国語、探究国語、数学総合α、チャレンジスポーツ、
　　音楽表現、美術表現、書道表現
　専門科目…生物活用

②　普通科では、「地域」を素材とした体験型の学び

＜実施状況＞
・１年次に、立山カルデラ砂防博物館で、立山カルデラの地形、環境、歴史についての講義。美女平や室堂平周辺で、気象観測、立山玉殿湧水と弥陀ヶ原の池塘の水質調査を実施

・出身自治体にみられる防災や福祉等の地域課題を取り上げ、情報収集や解決策を検討

③ 自然科学コースでは、体験学習を多く取り入れ、科学的なテーマの課題研究に取り組む

＜実施状況＞
・２年次に、糸魚川や黒部市吉田科学館を舞台に、自然の中で、教室ではできないフィールドワークを体験
・研究の成果を課題研究発表会で発表

④ 観光ビジネスコースでは、地域の自然や文化、歴史、産業などの観光資源について自ら課題を設定し課題の解決に向けた活動や研究を行う

＜実施状況＞
・２年次に、学校設定科目「観光基礎」において、地域をフィールドとして知る・調査する・発信することについて基礎的な方法を学ぶ
・３年次に、学校設定科目「エリアスタディ」において、地域の歴史や文化などを題材に自ら問いを立て深めることを通して人文社会科学的思考力を高める

⑤ 農業科では、地域に根差した農業教育を充実させるために、地域農家と協力し、教育と職業訓練を同時に進めるデュアルシステム※33型の長期委託実習に取り組む

＜実施状況＞
・３年次に、地域農家と協力して 10 日間の長期委託実習に取り組み、実践的な産業人を目指す

エ　その他の状況

①部活動の設置状況

	Ｒ１		Ｒ４
	泊	入善	(新)入善
運動系	9	10	12
文化系	6	7	7
計	15	17	19

泊高校のアーチェリー部を継承

②新たな施設・設備

〇アーチェリー場
〇設備　順化室・順化準備室整備、農場の教場整備・視聴覚教材整備

オ　再編校校長からの意見

・観光ビジネスコースの増設により自然科学的側面からの探究活動に人文社会科学的側面からの活動が加わり、幅広い地域課題を取り扱うことが可能になった。
・総合選択科目の「生物活用」では、農業科生徒が普通科生徒に土の扱い方や播種方法を手ほどきするなど、異学科間の学びあいの場となっている。
・地域住民と生徒の交流機会が増え、地域活性化に貢献している。
・両コースとも体験型学習を多く取り入れる点など人気が高く、定員を超える希望がある。
・アーチェリー部では施設の充実に伴う練習効率の向上により創部３年目で北信越大会団体準優勝を成し遂げるなど成果をあげている。

【 富山北部高校 】普通科と職業系専門学科２学科を併設する総合制高校

（令和２年に水橋高校と富山北部高校を再編統合）

ア　学科構成

学　　科	普通科	くすり・バイオ科	情報デザイン科	合　計
募集定員	120 名 （３学級）	80 名 （２学級）	40 名 （１学級）	240 名 （６学級）

※令和２年開校時の募集定員

○再編による変化

R1		学級数	定員
水橋	普通科	3	120
	体育ｺｰｽ	1	40
富山北部	普通科	3	120
	くすり･バイオ科	1	40
	情報デザイン科	1	40

（8学級320名）

R2～		学級数	定員
(新)富山北部	普通科	3	120
	体育ｺｰｽ	1	40
	くすり･バイオ科	2	80
	情報デザイン科	1	40

（6学級240名）

イ　目指す姿

◎４つの学科・コースで個性を磨き　君の未来を切り拓きます
○普通科…確かな学力の定着と向上を図り、大学進学を目指します!!
・体育コース…アスリートの育成とスポーツ振興のエキスパートを育てます!!
○くすり・バイオ科…くすりの富山を支えるスペシャリストを目指します!!
○情報デザイン科…ビジネスとデザインのエキスパートを育てます!!

ウ　「魅力ある学校づくりのための仕組み」と実施状況

① 生徒の多様な学習ニーズに対応し、普通科の生徒が職業系の専門科目を学習したり、専門学科の生徒が他の職業系の専門科目や普通科の科目を学習したりできる

＜実施状況＞
・３年次 10 科目から選択
普通科目…倫理、公民研究、数学研究、英語研究、家庭研究
専門科目…スポーツ研究、バイオ化学、薬品化学、ビジネス経済、
デザイン研究

② 体育コースでは、体育の様々な種目・理論を幅広く学習するとともに、選択した種目を通した専門的な学習活動

＜実施状況＞
・専門教科「体育」を設定し、陸上競技や水球、サッカー、剣道、フェンシング、カヌーなどの専門種目を専門的に学ぶ
・１年次に「スポーツ学」講座を実施し、科学的トレーニング法やスポーツ栄養学、スポーツ心理学などを学ぶ
・２年次には、スポーツに関する探究活動を行い、プロジェクト研究やフィールドワークに取り組む

③ くすり・バイオ科では、薬業やバイオに関する知識と技能・技術を修得するとともに、先進的な学術研究に触れるなどの専門的な学習活動

＜実施状況＞
・２年次から、進路希望や適性を考慮し、製薬技術系、薬品科学系、バイオ化学系の３系列に分かれて、それぞれの知識、技能の習得に重点をおいた学習
・県内製薬関連企業や研究機関との連携により、専門技術者の講義やインターンシップなどの実施
・富山県立大学や富山大学等による出前講義や研究室体験などの実施

④ 情報デザイン科では、ビジネスの基本を身に付けたデザイナーを育成し、地域・企業・大学・研究機関との連携による実践的な学習活動

＜実施状況＞
・２年次から、進路希望や適性を考慮し、情報処理や簿記会計などのビジネスに重点をおいたビジネス系とＣＧや商業デザインの実習をとおしてデザインに重点をおいたデザイン系に分かれて学習
・県内企業や富山県美術館などの関係機関との連携により、実習体験や起業家による講話などの実施
・デザイン制作の模擬株式会社を設立し、活動を通して、実践的な学習を推進

エ　その他の状況

①部活動の設置状況

	Ｒ１		Ｒ４
	水橋	富山北部	(新)富山北部
運動系	10	11	14
文化系	7	10	13
計	17	21	27

水橋高校の陸上競技部、カヌー部、フェンシング部、ハンドボール部を継承

②新たな施設・設備

〇フェンシング場
〇設備　くすり・バイオ科設備整備、フェンシング審判機器更新、カヌー更新、陸上競技設備整備

オ　再編校校長からの意見

・学校規模が大きくなり、水橋高校から引き継いだ体育コースは、１年次開設でクラス替えもなく、学科に近い性格を持つ。体育コースの設置により、元々盛んであった本校の部活動の活性化が著しい。
・富山学区唯一の総合制高校として、大変特色のある学校となった。普通科と職業科のバランスも良く、高校で部活動を頑張って進学及び就職をしたい者のいずれのニーズにも対応できるため、魅力ある学校となっている。
・同窓会の理解と協力が大きく、再編に際しては，制服と校章の刷新、水橋高校の校訓と旧富山北部高校の校訓の両方を新高校の校訓とするなどした。２つの校訓を正面玄関と生徒昇降口に並べて掲額し、かつ校訓碑も並べて設置するなど、水橋高校と一つになる思いを前面に打ち出しているため、水橋高校からも概ね好意的に受け容れられていると感じる。
・水橋高校を卒業して大学進学した教員志望者が、本校で教育実習を希望するケースがかなり多い。

【 高岡高校 】普通科と普通系専門学科２学科を併設する普通科系高校

（令和２年に高岡西高校と高岡高校を再編統合）

ア　学科構成

学　　科	普通科	理数科学科・人文社会科学科	合　計
募集定員	200 名 （５学級）	80 名 （２学級）	280 名 （７学級）

※令和２年開校時の募集定員

○再編による変化

R1		学級数	定員
高岡西	普通科	3	120
	人間福祉ｺｰｽ	1	40
高岡	普通科	5	200
	探究科学科	2	80

（10学級400名）

R2～		学級数	定員
(新)高岡	普通科	5	200
	探究科学科	2	80

（7学級280名）

※探究科学科は理数科学科と人文社会科学科の総称

イ　目指す姿

◎ふるさとに誇りと愛着を持ったグローバル・リーダー（社会的役割）
◎「質実剛健」「自主自律」の精神を備えた人物（伝統・校風）
◎志高く、自ら学び、考え、行動する、聡く心豊かでたくましい生徒（人間性）

ウ　「魅力ある学校づくりのための仕組み」と実施状況

① 普通科では、探究的な学習を推進し、生徒が興味・関心のあるテーマを設定した探究活動

＜実施状況＞
・探究科学科との合同学習を実施し、「総合的な探究の時間」を中心に、探究科学科がこれまで培ってきた探究的な活動を取り入れる
・２年次には課題研究を実施し、その成果を発表

② 普通科では、生徒のニーズに柔軟に対応できる学校設定科目を開講し、知性に根差す豊かな人間性を培う学習活動

＜実施状況＞
・学校設定科目として、数学総合Ａ～Ｃ、化学研究、地学研究、音楽研究、美術研究、書道研究、公民研究を開講し、生徒の多様なニーズに対応

③ 探究科学科では、学び問う力、豊かな人間性を基盤とし、探究的な学習や専門科目の学習の充実

＜実施状況＞
・「総合的な探究の時間」や教科の時間を活用し、探究活動に必要な「読む」「書く」「表す」「話す」のスキルを獲得する
・立山実習や関東方面への科学探訪等の本物に触れる体験学習を実施

・人文社会科学科は高志の国文学館、理数科学科は総合教育センターで実習を実施し、学科の専門性を高める
・従来通り、富山高校、富山中部高校と探究活動に関する合同研究を進め、３校合同の研究発表会を実施

④ 地域貢献活動への生徒の自主的な参加の推進

＜実施状況＞
・地域の子ども食堂※34への協力などのボランティア活動の参加
・年間を通じて、日本ジュニア数学オリンピックなどに興味を持っている呉西地区の中学生を集め、高岡高校生が数学を教える特別講座を実施
・行政や地域企業等と連携し、課題研究として地域課題の解決に取り組む

エ　その他の状況

①部活動の設置状況

	Ｒ１		Ｒ４
	高岡西	高岡	(新)高岡
運動系	13	14	14
文化系	9	18	19
計	22	32	33

高岡西高校のソフトテニス部を継承

②新たな施設・設備

○トレーニングハウス
○設備　テニスコート改修

オ　再編校校長からの意見

・高岡西高校と高岡高校の交流企画（合唱など）を実施することにより、高岡高校生が高岡西高校のボランティア精神や福祉マインドの一端に触れることができた。
・家庭部などを中心として、特別支援学校との交流や子ども食堂でのボランティア活動に新たに取り組むなど高岡西高校から引き継いだ活動を具体的に実現できるようになった。
・上記のことから、「学力向上」だけでなく、「人間性を育む」教育活動をこれまで以上に進めることができるようになった。

【 南砺福野高校 】普通科と普通系及び職業系専門学科３学科を併設する総合制高校

（令和２年に南砺福光高校と南砺福野高校を再編統合）

ア　学科構成

学　　科	普通科	国際科	農業環境科	福祉科	合　計
募集定員	160 名 （４学級）	30 名 （１学級）	30 名 （１学級）	30 名 （１学級）	250 名 （７学級）

※令和２年開校時の募集定員

○再編による変化

R1		学級数	定員
南福砺光	普通科	2	80
	国際科	1	30
南砺福野	普通科	3	120
	農業環境科	1	30
	福祉科	1	30

（8学級290名）

R2～		学級数	定員
(新)南砺福野	普通科	4	160
	国際科	1	30
	農業環境科	1	30
	福祉科	1	30

（7学級250名）

イ　目指す姿

◎世界を見つめ南砺で学ぶ ～ Think globally Act locally ～
○普通科…学びを深め、未来を創造する
○国際科…主体的・対話的・実践的な活動を通して英語力を高める
○農業環境科…世界を見据え、地域の産業に貢献する
○福祉科…地域とつながる、介護のスペシャリストを目指す

ウ　「魅力ある学校づくりのための仕組み」と実施状況

①
生徒の多様な学習ニーズに対応し、普通科の生徒が職業系の専門科目を学習したり、専門学科の生徒が他の職業系の専門科目や普通科の科目を学習したりできる

＜実施状況＞
・２年次９科目から可能な科目を選択
普通科目…表現技術、音楽表現Ａ、美術表現Ａ、書道表現Ａ、英語研究、ライフデザイン基礎
専門科目…Advanced English、造園デザイン、介護福祉基礎

・３年次 12 科目から可能な科目を選択
普通科目…政治・経済、数学研究、実践数学β、音楽表現Ｂ、美術表現Ｂ、書道表現Ｂ、ライフデザイン
専門科目…Advanced English、中国語会話、Scientific Reading、生物活用、介護福祉基礎

②
南砺市全域を対象エリアとし、地域の課題についての自主的な研究や、学校外での体験学習・調査研究を行う探究的な学習活動

＜実施状況＞
・１年次に、普通科と国際科の生徒が「地域課題学習」として、グループで南砺・砺波地域の自然や文化・歴史、産業などから課題を設定し、地域における課題のよりよい解決方法について、自ら考え、提案する

・２年次に、普通科と国際科の生徒が「とやま地球学」として、校外での体験活動やボランティア、大学での公開講座等に参加、その成果をレポートにまとめる

③ 国際科では、外国語教育に力を入れ、海外の高校との交流や語学研修を行うとともに、語学力を生かしたことに取り組む

＜実施状況＞
・外国語や異文化などについて学べるように、実用英語や英文多読講座、中国語入門、中国語会話等の科目を豊富に設定
・１年次に語学研修施設において異文化体験と英語に浸かる生活。２年次にオーストラリアで語学研修、ホームステイと現地高校での学習
・ＩＣＴを使って、外国の学生との双方向の交流

④ 農業環境科では、農業を中心として職業人を育成するため、幅広い実践力や問題解決能力を身に付ける学習活動に取り組む

＜実施状況＞
・２年次から、進路希望や適性を考慮し、野菜類型、草花類型、土木類型の３つの類型に分かれて学習
・農業実習やインターンシップ活動、農産物即売会などの実施
・地域の方々と共に教え合い学び合う「共学農園」の開催

⑤ 福祉科では、基礎科目を修得するとともに、実習を中心に将来の介護福祉現場に対応できる実践力を身につけ、介護福祉士国家試験に合格

＜実施状況＞
・３年間で約２カ月間、介護福祉施設における実習
・介護福祉士国家試験、５年連続全員合格（H29～Ｒ３）

エ　その他の状況

①部活動の設置状況

	Ｒ１		Ｒ４
	南砺福光	南砺福野	(新)南砺福野
運動系	9	19	21
文化系	8	13	14
計	17	32	35

南砺福光高校のライフル射撃部を継承

②新たな施設・設備

〇複合実習棟
〇設備　食品加工設備、リフト付入浴設備、ビームライフル関連設備

オ　再編校校長からの意見

- 普通教科の教員が増加し、教科・進路指導の充実につながっている。
- 国際科が加わったことで、他学科への刺激となっている。また、総合選択制における科目数が増加し、生徒は自らの興味・関心に応じた科目をより多様な選択肢の中から選ぶことができるようになった。
- ４学科体制となり、生徒数も増加したため、学校行事や部活動により積極的に取り組もうとする雰囲気が生まれ、大いに活性化した。
- 複合実習棟の整備により、実習や部活動において、一層充実した教育活動を行えるようになった。
- 入学時の学力幅が広がり、よりきめ細かな指導が必要になった。

（３）令和２年度再編統合に関するアンケート調査結果の概要

ア　調査の目的

この調査は、Ｒ２再編計画に係る評価を行い、今後の高校教育の充実、改善を図るための基礎資料を得ることを目的とする。

イ　調査の対象と回収状況

	標本数	有効回収数	回収率
再編統合校の新校３年生	934	552	59.1%
再編統合校の新校３年生の保護者	934	320	34.3%
再編統合校の新校教員	245	136	55.5%
比較対象校３年生	991	786	79.3%
合計	3,104	1,794	57.8%

ウ　調査方法

① 学校を通じて配付
② 電子申請サービスを活用して、回答を回収

エ　調査時期

令和４年 12 月１日（木）～ 令和５年１月 12 日（木）

オ　調査結果の主な概要

① 満足度について（生徒対象：全科共通）

・入善　　生徒同士の関係(65%)、学習相談等(63%)、部活動(63%)
・富山北部　生徒同士の関係(75%)、ＩＣＴ機器の活用(72%)、教科指導(69%)
・高岡　　生徒同士の関係(87%)、教科指導(83%)、個人面接(81%)
・南砺福野　部活動(74%)、生徒同士の関係(72%)、先生とのコミュニケーション(69%)
○いずれの学校も共通して、「生徒同士の関係」の満足度が高い。

② 達成度について（生徒対象：全科共通）

・入善　　コミュニケーション力(67%)、進路・将来の明確化(67%)、
　　仲間と協調する力(64%)
・富山北部　仲間と協調する力(83%)、進路・将来の明確化(80%)、
　　一般教養・知識を増やすこと(77%)
・高岡　　論理的思考力(87%)、幅広い見方(87%)、
　　一般教養・知識を増やすこと(84%)
・南砺福野　仲間と協調する力(78%)、コミュニケーション力(76%)、
　　一般教養・知識を増やすこと(75%)
○多くの学校で、今までの高校生活において「仲間と協調する力を伸ばすこと」「一般教養・知識を増やすこと」について達成できているという回答が多い。

③ 各学校の特色について役立っているもの（生徒対象）

・入善　　専門科目「観光基礎」「エリアスタディ」の開講(72%)
・富山北部　専門科目「スポーツⅠ～Ⅳ」の開講(78%)
・高岡　　基礎学力を充実するための教育活動の実施(86%)
・南砺福野　専門教科「英語」や「第２外国語」の開講(44%)

④ 保護者満足度（保護者対象）

・入善(88%)　・富山北部(75%)　・高岡(85%)　・南砺福野(76%)

〇いずれの学校も７割以上の満足度である。

⑤ 学校規模のメリット（教員対象）

・入善　部活動の活性化(52%)、教員一人あたりの担当科目数(48%)、学校行事の活性化(45%)、選択科目の増加(45%)

・富山北部　部活動の活性化(82%)、選択科目の増加(63%)、生徒同士の切磋琢磨(63%)、学校行事の活性化(63%)、教員一人あたりの担当科目数(63%)

・高岡　部活動の活性化(70%)、学校行事の活性化(70%)、生徒同士の切磋琢磨(70%)

・南砺福野　部活動の活性化(71%)、学校行事の活性化(71%)、生徒会活動の活性化(60%)

〇いずれの学校も「部活動の活性化」「学校行事の活性化」の回答が多い。

⑥ 効果があるもの（教員対象）

・入善　フィールドワークや各種機関等と連携した教育活動の実施(85%)

・富山北部　大学や企業と連携した教育活動の実施(68%)

・高岡　基礎学力を充実するための教育活動の実施(63%)

・南砺福野　施設・設備の充実(71%)

⑦ 記述回答項目における主な意見

【生徒】

・プレゼンテーション力や情報収集力、論理的思考力などを高めることができた。

・進路選択において参考となったり、選択の幅を広げたりすることにつながった。

・講座の内容が今後に役立つとは思えなかった。

【保護者】

・高い志を持った仲間と切磋琢磨して勉強や部活動に取り組むことができた。

・職業科ならではの授業があり、専門分野の指導が充実していることが良かった。

・コロナ禍ということもあり、本来できるはずの子どもの活動が制限されたり、学校行事を参観する機会がなかったりしたことが残念だった。

【教員】

・部活動数や行事が増えたことで生徒の成長やモチベーション向上につながった。

・生徒が増えたことで活気がある。その一方、細かい目配りが難しい面もある。

・生徒間の学力差が大きくなり、学習意欲を高める工夫が難しくなった。

（４） 令和２年度再編統合の評価

ア 学校規模について

全県立高校（全日制）の平均学級数は、再編統合を実施した令和２年度に改善されました。再編した学校だけでなくそれ以外の学校についても、学校規模を確保したことによって、生徒同士が切磋琢磨できる教育環境のもとで教育内容の充実が図られています。

【高校再編（Ｒ２再編）による県立高校（全日制）学校規模の変化】

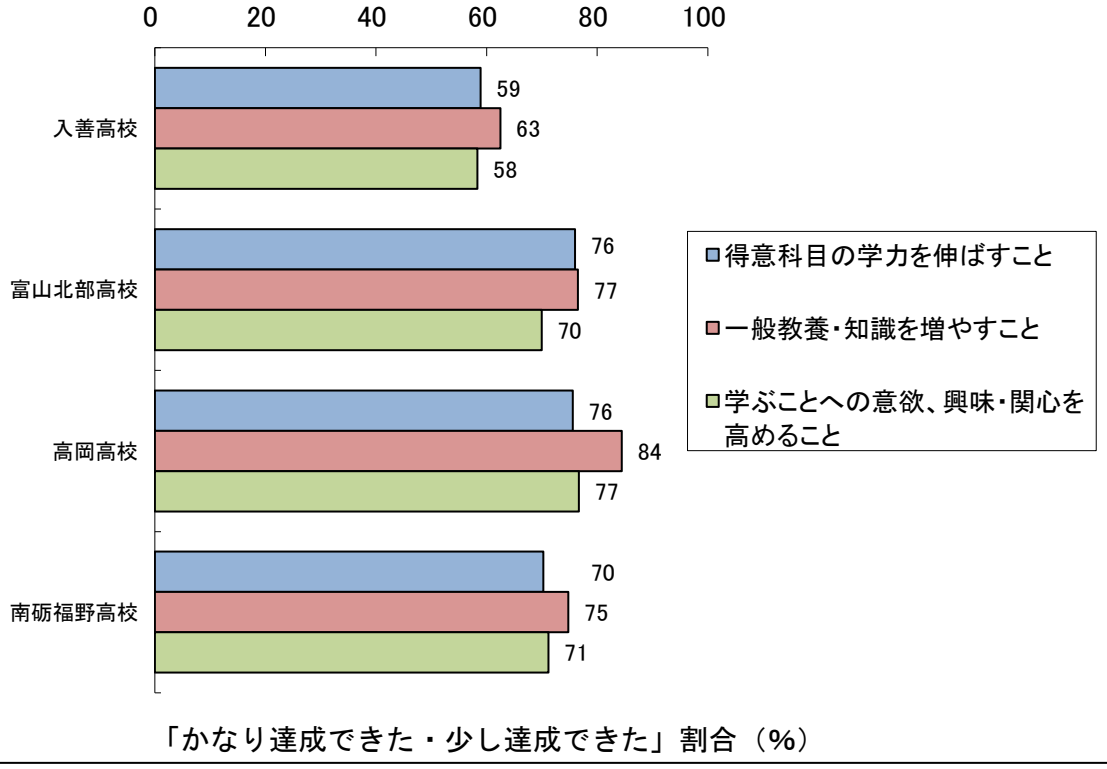
	平均学級数	６学級以上の学校数	３学級以下の学校数
Ｒ１	4.5	9	10
Ｒ２	5.0	12	4

イ 教育活動の充実について

①学力の充実

新高校においては目指す姿を明確にし、特色ある選択科目を増やすなど生徒が希望する進路に対応できるようになりました。高校生活において、６割～８割程度の生徒が学ぶことへの意欲、興味・関心を高め、得意科目の学力を伸ばすことや一般教養・知識を増やすことができたとしており、学習環境の充実が図られたことがうかがえます。

【生徒対象のアンケート（Ｒ４.12）結果より】

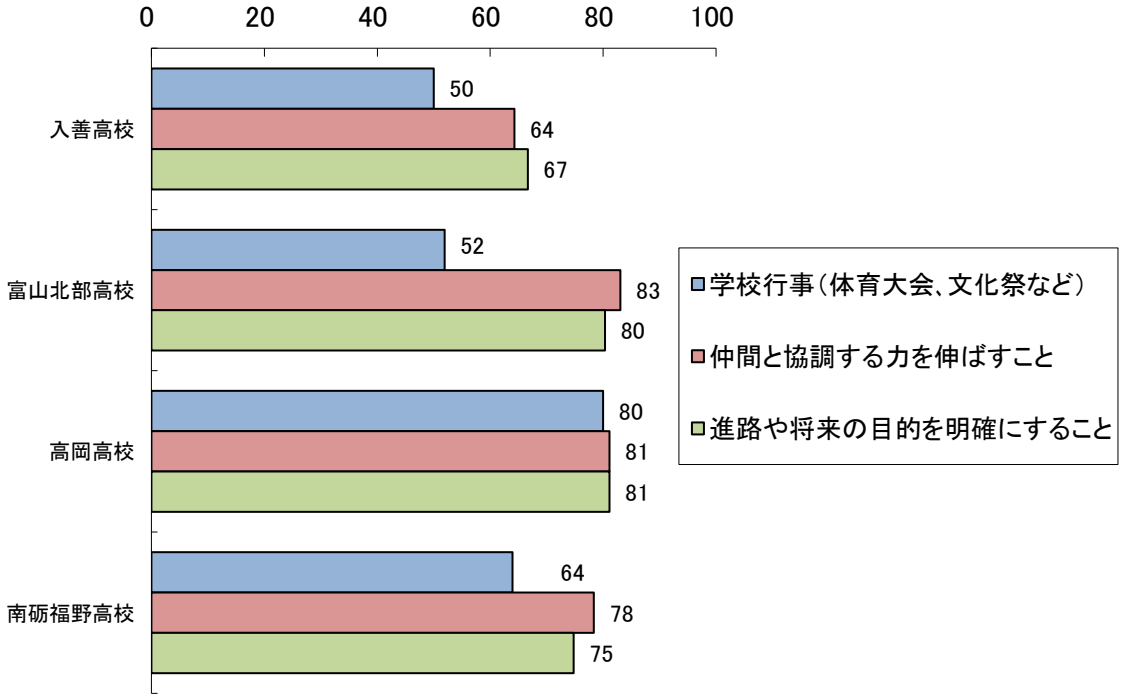


ただし、生徒数が増えたことなどにより、入学時の学力の幅が大きくなっており、どの生徒も学力を伸ばすことができるよう、一人ひとりの生徒の状況に応じた指導を工夫して行うことが必要です。

②学校行事等の活性化

３年間で培われる学力に加えて、コロナ禍であったにもかかわらず、学校行事等の満足度において一定程度の満足感を示していることに加え、６割～８割程度の生徒が仲間と協調する力を伸ばすことや進路や将来の目的を明確にすることが達成できたとしており、生徒が互いに他者と協働する力を養い、進路実現にも良い影響を与えているのではないかということがうかがえます。

【生徒対象のアンケート（Ｒ４.12）結果より】



「とても満足・やや満足」、「かなり達成できた・少し達成できた」割合（%）

【中学校からの聴き取り】
・大学進学や就職などができ、学力や希望に合わせて進路選択ができる。
・総合選択制をとっており、学科を越えて選択科目を履修できることが興味深い。
・体育コースやくすり・バイオ科、情報デザイン科は近隣高校にはなく、目的が明確な生徒にとっては、進学したいと考える高校となっている。
・以前に比べると、探究科学科への志望は増えてきていると感じられる。さらなる情報発信などによって、探究科学科の魅力が高まると良いのではないかと思う。
・学力層の幅が広がったのではないかと考えている保護者もいる。
・様々な学科があり、行事や部活動を異なる学科の仲間と取り組める。
・体育大会は活気があり、パワーを感じる。様々な学科が集まり、一体となって取り組むので魅力的である。たくさんの人が集まって活動できることは大変良いと考えている。

③部活動の活性化

運動･文化系の部活動全般において、部活動数・部員数が増え、活性化しています。特に、入善高校ではアーチェリー部、富山北部高校ではフェンシング部、カヌー部、陸上競技部、ハンドボール部、高岡高校ではソフトテニス部、南砺福野高校ではライフル射撃部のように小規模校から引き継いだ部活動が、各学校の特色の一つとなっています。また、富山北部高校では、体育コースの生徒が、各部活動の推進役になっているなど部活動の果たす役割が大きくなっています。

【再編前と再編後の部活動数の変化】

Ｒ１		Ｒ４	
高校名	部活動数	新高校名	部活動数
泊高校	15	入善高校	19
入善高校	17		
水橋高校	17	富山北部高校	27
富山北部高校	21		
高岡西高校	22	高岡高校	33
高岡高校	32		
南砺福光高校	17	南砺福野高校	35
南砺福野高校	32		

【中学校からの聴き取り】
・部活動の数が増えたことが、良さになっている。
・中学校の部活動キャプテンなどが多く進学しており、勉強も部活動もやりたいという生徒が進学している。
・運動部以外にも文化部が多種にわたり開設されており、部活動が盛んな印象がある。
・外で活動している部活動を目にすることがあり、一生懸命やっているという印象である。

ウ　新高校における魅力づくりのための取組みについて

① 総合選択制

南砺福野、富山北部、入善の３校において、「総合選択制」により生徒同士が学科の枠を超えて学びあうことができるようになりました。 課題として、専門学科の生徒の普通科目に対する学習ニーズが高い反面、普通科生徒は他学科科目の履修が低調という点が挙げられます。今後は、生徒の学習ニーズに合った総合選択制の運用を図る必要があります。

② 専門教科と学校設定科目などの学校の特色を活かす取組み

専門教科「体育」の「スポーツⅠ」～「スポーツⅣ」（富山北部高校）では、体育の様々な種目・理論を幅広く学習するとともに、専門種目の高度な運動技能を養っています。また、「観光基礎」「エリアスタディ」（入善高校）、「英文多読講座」（南砺福野高校）などの学校設定科目は、当初のねらいを生かして、生徒の表現力や思考力、実践力を高める役割を果たしています。高岡高校では、希望する進路を実現するために個々の学力に応じた手厚い学習指導により、学力を高めているとともに、探究的な学習を推進し、課題解決力などの探究する力を育成するための学習活動も積極的に行っています。さらに、職業系専門学科を設置している南砺福野高校、富山北部高校、入善高校では、それぞれの分野におけるスペシャリストを育てるための知識・技能を身に付ける学習や地域社会・企業等との連携による職業人の育成を目指した取組みなど、特色ある教育活動を行っています。

【再編校校長の意見】
・観光ビジネスコース「観光基礎」では地域の観光資源をテーマとしたフィールドワークに年間９回取り組むなど地域の魅力や課題の発見につながるよう指導している。生徒対象アンケートでは「今まで気付かなかった地域の魅力に気付いた」に 94%、「将来自分の住んでいる地域のために役立ちたい」に 64%の回答(同様の全国調査平均 37%)を得ている。
・総合選択制には、生徒に多様な選択肢を提示するという意義が大きい。異なる学科の生徒同士が同一の授業を受けるなどして、総合制高校の特色を発揮している。生徒の様々な進路希望に応えることができていると感じる。
・普通科では、探究科学科との合同学習を実施し、「総合的な探究の時間」を中心に、探究科学科がこれまで培ってきた探究的な活動を取り入れ、成果を上げている。
・国際科における「英文多読講座」や「実用英語」、また、中国語に関する科目などは国際的視野を広げたり、異文化理解を深めたりするために有効である。また普通科・国際科における「総合的な探究の時間」の「地域課題学習」（１年次)、「とやま地球学」（２年次)は、地域と連携した探究活動を行うことにより地域理解を深めるとともに、思考力や表現力、実践力を高めている。

エ　志願状況と通学状況について

① 志願状況

再編前は、定員割れを起こす学科もありましたが、再編の結果、志望者数は、概ね改善が見られるようになりました。特に富山北部高校においては、再編後は志願倍率が２倍近くの年も見られるようになりました。生徒の希望に応じた進路先のあり方という課題はありますが、より明確な目的意識を持って入学する生徒が増えています。

【再編前と再編後の一般入学者選抜志願倍率】　　※下線は定員割れ

◎再編前（H28～H31年度入試）

泊高等学校				
旧学科（募集定員）	H28	H29	H30	H31
普　通（120）	1.03	0.79	0.73	0.72

入善高等学校				
旧学科（募集定員）	H28	H29	H30	H31
普　通（120）	0.95	1.12	0.97	0.93
農　業（30）	1.13	1.19	1.42	0.81

水橋高等学校				
旧学科（募集定員）	H28	H29	H30	H31
普　通（160～120）	0.92	1.20	1.00	1.02

富山北部高等学校				
旧学科（募集定員）	H28	H29	H30	H31
普　通（120）	1.27	1.15	1.55	1.34
くすり・バイオ（40）	1.17	2.00	1.52	1.50
情報デザイン（40）	0.95	1.50	1.90	1.35

高岡西高等学校				
旧学科（募集定員）	H28	H29	H30	H31
普　通（120）	0.98	1.03	1.34	1.00

高岡高等学校				
旧学科（募集定員）	H28	H29	H30	H31
普　通（200）	1.09	1.00	1.07	0.84
探究科学（80）	1.21	1.11	1.23	1.44

南砺福光高等学校				
旧学科（募集定員）	H28	H29	H30	H31
普　通（80）	0.88	1.21	0.96	0.96
国　際（30）	0.55	1.06	0.32	0.45

南砺福野高等学校				
旧学科（募集定員）	H28	H29	H30	H31
普　通（160～120）	0.99	1.14	1.27	1.20
農業環境（30）	1.56	1.50	0.81	0.88
福　祉（30）	0.75	1.13	1.40	0.80

◎再編後（R2～R4年度入試）

入善高等学校			
新学科（募集定員）	R2	R3	R4
普　通（160）	0.97	0.95	0.85
農　業（30）	1.12	0.86	1.30

富山北部高等学校			
新学科（募集定員）	R2	R3	R4
普　通（120）	1.81	1.98	1.59
くすり・バイオ（80）	1.98	0.90	1.28
情報デザイン（40）	1.45	2.30	1.17

高岡高等学校			
新学科（募集定員）	R2	R3	R4
普　通（200）	0.91	0.80	1.10
探究科学（80）	1.50	1.43	1.00

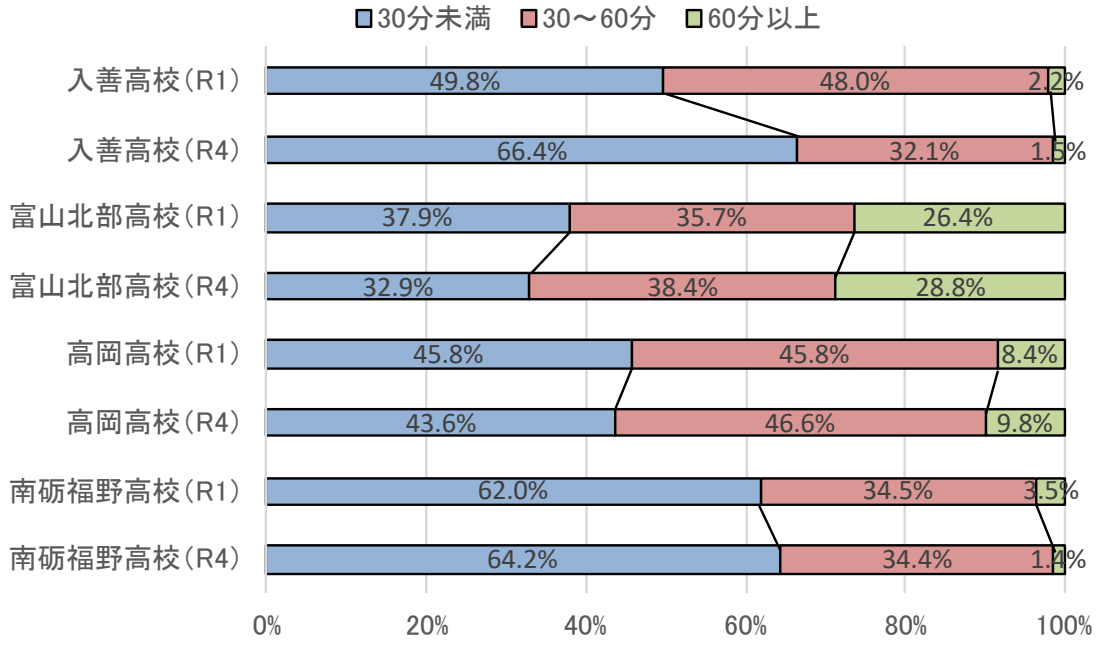
南砺福野高等学校			
新学科（募集定員）	R2	R3	R4
普　通（160）	0.96	0.94	1.10
国　際（30）	0.63	1.22	0.81
農業環境（30）	1.94	2.25	0.81
福　祉（30）	0.53	1.20	1.27

【中学校からの聴き取り】
- 学力層に幅があるように思われるので、その中で授業が成り立っているのかという心配がある。
- 普通科の合格水準を予測しづらくなり、進路指導の難しさにつながった。
- 再編前と変わらず、努力して入りたいと思う高校である。
- 複数の学科があるので、何をしたいのか、何を学びたいのか、卒業後に何をしたいのかをよく面談して決めている。

② 通学状況

生徒の通学時間は、再編後の学校によって変化の様子が異なっています。入善高校や南砺福野高校については、通学時間が30分未満の割合が上昇しています。入善高校では、近辺の地域からあいの風とやま鉄道を利用して通学する生徒が多いことが一因と考えられます。南砺福野高校では、自家用車で送迎してもらう割合が上昇しています。富山北部高校や高岡高校については、通学が30分以上の割合が上昇しています。富山北部高校では、あいの風とやま鉄道を利用して通学する生徒が多くなっています。また、路面電車の南北接続により、遠方からでも通えるような状況にあります。新高校がカリキュラムや施設・設備等の充実により魅力が増し、遠方であってもその学校に通いたいという生徒が増えたものと推測されます。

【通学時間の変化】



【中学校からの聴き取り】

・路面電車の南北接続により、普通科志望生徒の進路選択肢の一つに入ってきた。

・地元志向が強い保護者が多いため、遠方に行く必要がなく、通いやすくありがたい学校である。

（５）県立高校のあり方に関するアンケート調査結果の概要

ア　調査の目的

この調査は、「魅力と活力ある学校づくり」を目指す県立高校の、今後のあり方について検討するための基礎資料を得ることを目的とする。

イ　調査の対象と回収状況

	標本数	有効回収数	回収率
公立中学校３年生・義務教育学校９年生	908	735	80.9%
公立中学校３年生・義務教育学校９年生の保護者	908	480	52.9%
県立高校２年生	2,160	1,461	67.6%
県立高校２年生の保護者	2,160	934	43.2%
県立高校卒業生	388	189	48.7%
教育関係者	445	371	83.4%
県内に事業所を有する企業	800	407	50.9%
合計	7,769	4,577	58.9%

ウ　調査方法

① 中学３年生、中学３年生保護者、高校２年生、高校２年生保護者、中学校・高校教員は、学校を通じて配付
② 卒業生は、高校を通じて郵送配付
③ その他の対象者は郵送配付
④ 電子申請サービスを活用して、回答を回収

エ　調査時期

令和４年８月 22 日（月）～10 月７日（金）

オ　調査結果の主な概要

① 高校選択の際、重視すること

・全調査対象者を通じて、前回（H17 調査）同様、「中学校における成績」の回答が最も多いが、卒業生を除いて、前回と比較して割合は減少している。特に中３保護者と高２保護者は、10 ポイント程度減少している。

② 高校に関する情報の取得方法

・中学３年生については、「高校の学校案内やオープンハイスクール」の回答が最も多い。他の調査対象者は、「中学校で配布される進学資料」の回答が最も多い。

③ 高校生活で身につけること

・中学３年生、高校２年生、卒業生は、前回同様「大学などへ進学し基礎となる学力」の回答が最も多い。企業は、前回同様、「社会人としてのコミュニケーション力」の回答が最も多い。

④ 高校生活、学習内容の満足度

満足 ＋ どちらかといえば満足	高校生活			学習内容		
	高校２年生	高２保護者	卒業生	高校２年生	高２保護者	卒業生
Ｒ４調査	**64.9%**	**76.2%**	**81.5%**	**72.4%**	**69.5%**	**83.0%**
Ｈ１７調査	52.2%	71.8%	82.2%	53.4%	61.0%	81.1%

⑤ 学習内容について望むこと

・高校２年生は、前回の「進路希望や興味関心に基づいて選択できる多様な科目を増やす」(41.5%)が 29.0%と減少し、今回「進学に役立つ科目の時間を増やす」(30.9%)の回答が最も多い。

⑥ 興味や関心のある学習

・中学３年生は、「人文科学や社会科学」「スポーツや健康に関すること」の回答が多く、中３保護者は、「データサイエンスなどの情報に関すること」「外国語や国際理解に関すること」の回答が多い。

⑦ 普通系学科と職業系学科の定員の割合

・中３・高２保護者、卒業生、教育関係者対象の回答。どの対象者も「これまでと同程度でよい」の回答が最も多い。

⑧ 有意義な高校生活を送るための学校規模

・高校２年生以外の調査対象者で「４～５学級」または「３～４学級」の回答が最も多い。
・高校２年生は「規模は気にしない」の回答が最も多い。

⑨ 望ましい県全体の高校像

・全調査対象者を通じて、「学級数が多い学校から少ない学校まで、バランスよくあることが望ましい」の回答が最も多い。

⑩ どのような高校があれば良いか

・中学３年生、高校２年生は、友人との関係を重視する回答が多い。保護者、教育関係者、企業は、「きめ細かい指導が行われる学校」の回答が最も多い。

⑪ どのような特色を持った学校があれば良いか

・全調査対象を通じて、前回同様「資格取得や就職に必要な技能」「興味・関心や進路希望に応じた科目選択」の回答がいずれも多い。
・その他として、「知識・情報に偏ったものではなく道徳・社会的常識を重視した学校」や「問題解決までの過程を重視する学習ができる学校」などの意見がある。

⑫ 高校の連携として考えられること・すでに連携していること

・企業として、「生徒の企業見学」「インターンシップ」の回答が最も多い。

（６） 今後の再編計画について

前述のように、令和２年度再編統合については、中学校卒業予定者数の減少が見込まれる中、中学生に幅広い選択肢を確保し、本県の高校教育を充実するため、進めるものとされ、具体的な方針に沿って新校４校を整備し、開校したものです。

「令和２年度再編統合に関するアンケート調査」の結果等を含む評価については、平均学級数 5.0 を確保できたことや各校で魅力ある教育活動の充実に向けて様々な取組みができていることなどがあげられました。この評価について、「令和の魅力と活力ある県立高校のあり方検討委員会」では、「特色ある学科や部活動、伝統を残し、再編対象校の良いところがうまく取り込まれている」「高校では、ある程度の規模があり多様な生徒と出会える機会があることが協調性や社会性を高めるという点でとても大事だ」「学力差が大きくなったと感じられる意見がいくつかあったことが気にかかる」などのご意見をいただきました。

また、「県立高校のあり方に関するアンケート調査」において、「有意義な高校生活を送るための学校規模」の項目では、「４～５学級」または「３～４学級」の回答が多く、「望ましい県全体の高校像」の項目では、「学級数が多い学校から少ない学校まで、バランスよくあることが望ましい」の回答が最も多い結果となりました。また、「どのような高校があれば良いか」の項目では、生徒は、「友人との関係を重視する」の回答が多く、保護者等は、「きめ細かい指導が行われる学校」の回答が最も多い結果となりました。

このアンケート結果について、同検討委員会では、「高校生や中学生が「友達ができる学校」を求めていることを踏まえると、それなりの規模は高校でも必要だろうと思う」「進路希望に応じて必要とする学びを選択できるような柔軟な運用もあればよいと思う」などのご意見をいただきました。

県立高校再編の実施方針（平成 30 年２月５日）によれば、令和９年度以降の対応については、中学校卒業予定者数の推移等を踏まえ別途協議することとされています。

今後の再編計画については、今後も中学校卒業予定者数の大幅な減少が見込まれることから、「令和の魅力と活力ある県立高校のあり方検討委員会」や総合教育会議での議論を踏まえ、県立高校の学科等の見直しや高校再編に関する学校規模や基準などの基本的な方針について、令和５年度以降、できるだけ速やかに新しい検討の場を設け、丁寧に検討していく必要があります。

おわりに

富山県では、令和３年３月に、今後の富山県の教育、学術、文化の施策の方針を定めた「第２期富山県教育大綱」が策定され、令和４年３月には、教育大綱に即して、目指す教育の姿や施策を今後５年間にわたり推進するために体系化した「第３期富山県教育振興基本計画」を策定しました。

この教育振興基本計画では、新たに目指す姿として「教育の振興を通して、すべての県民がいきいきと自分らしく暮らせるウェルビーイングの向上をめざす」ことと、「ＳＤＧｓに掲げられた質の高い教育を目指し、誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会を実現していく」ということを示しています。

現在、個別最適な学び、協働的な学び、課題解決型学習などがうたわれており、こうした学びは、予測困難といわれる未来においても、自分なりの解を考え、自分らしく幸せに生きることができる、ウェルビーイングを実現する力を育むためのものであり、教育によりウェルビーイングの実現を目指すことが大切です。

こうした中、この報告は、「令和の魅力と活力ある県立高校のあり方検討委員会」において、「Society5.0」の到来など社会のあり方が予測困難で複雑に変わり、技術革新等により、変化のスピードが速まり、これまで５年、10 年かかっていた変化が短期間に起きる時代になっており、そのような新たな時代を担う生徒を育成する視点なども考慮しながら、中長期的な展望に立ち、普通系学科、職業系専門学科、総合学科などの今後の基本的な方向等について議論し、まとめたものです。

今後、この報告を踏まえ、本県における中学校卒業予定者数が今後も急速に減少し続けることが見込まれることから、県立高校の普通系学科、職業系専門学科、総合学科等の見直しや高校再編に関する学校規模や基準などの基本的な方針について、引き続き検討の場を設け、丁寧に検討を進める必要があります。

この検討に当たっては、生徒や保護者等のニーズ等も考慮しつつ、教育関係者、市町村、ＰＴＡなどから幅広く意見を伺いながら、新たな県立高校のあり方や高校再編の基本的な方針について、検討を進める必要があります。

令和の魅力と活力ある県立高校のあり方に関する検討経過等

○第１回 検討委員会（令和３年８月31日）

・将来展望に立った県立高校のあり方について

○第２回 検討委員会（令和３年11月２日）

・職業系専門学科の現状と今後のあり方について

○第３回 検討委員会（令和４年２月９日）

・普通系学科・総合学科の現状と今後のあり方について

・様々なタイプの学校・学科のあり方について

○第４回 検討委員会（令和４年６月24日）

・定時制・通信制高校の現状と今後のあり方について

○第５回 検討委員会（令和４年11月11日）

・県立高校のあり方に関するアンケート調査結果について

○第６回 検討委員会（令和４年12月15日）

・普職比率について

・県立高校の学びの改革に向けて（骨子素案）

・学区のあり方について

○第７回 検討委員会（令和５年１月25日）

・令和２年度新高校開校に係る評価について

・県立高校の学びの改革に向けて（骨子素案）

○第８回 検討委員会（令和５年２月17日）

・令和の魅力と活力ある県立高校のあり方に関する報告書（素案）について

○パブリックコメント（令和５年３月７日～令和５年３月28日）

○第９回 検討委員会（令和５年５月９日）

・令和の魅力と活力ある県立高校のあり方に関する報告書（案）について

令和の魅力と活力ある県立高校のあり方検討委員会設置要綱

（設置）
第１条　中学校卒業予定者数の減少が見込まれる中、Society5.0時代の大きな変化に対応し、将来展望に立った魅力と活力ある県立高校のあり方について検討するため、「令和の魅力と活力ある県立高校のあり方検討委員会」（以下「委員会」という。）を設置する。

（所掌事務）
第２条　委員会は、次の事項について検討する。
(1) 県立高校の教育の充実に関すること。
(2) 普通科や職業科などの各学科のあり方に関すること。
(3) 令和２年度新高校開校に係る評価に関すること。
(4) 前各号に掲げるもののほか、県立高校のあり方に関すること。

（組織）
第３条　委員会は、委員16名以内をもって組織する。
2　委員は、学識経験者、教育関係者、保護者、経済界関係者のうちから、教育長が委嘱する。

（委員長及び副委員長）
第４条　委員会に、委員長及び副委員長を置く。
2　委員長は、委員の互選により定め、副委員長は、委員長が指名する。
3　委員長は、会議を進行する。
4　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故がある時は、その職務を代理する。

（会議）
第５条　委員会の会議は、教育長が招集し、委員長が議長となる。

（委員の任期）
第６条　委員の任期は、令和５年５月31日までとする。

（アドバイザー）
第７条　専門的立場からの意見を聴くため、委員会にアドバイザー若干名を置くことができる。
2　アドバイザーは、学識経験者のうちから、教育長が委嘱する。
3　アドバイザーは、教育長の要請に応じて委員会に出席するほか、委員会の所掌事務に関する事項に対して助言を行うものとする。

（幹事）
第８条　委員会に幹事を置く。
2　幹事は、富山県教育委員会事務局職員のうちから、教育長が任命する。
3　幹事は、委員会の事務を処理する。

（事務局）
第９条　委員会の事務局は、富山県教育委員会県立学校課に置く。

（細則）
第10条　この要綱に定めるもののほか、委員会の運営その他必要な事項は、教育長が別に定める。

附則
この要綱は、令和３年８月31日から施行する。

附則
この要綱は、令和４年４月１日から施行する。

附則
この要綱は、令和５年４月１日から施行する。

令和の魅力と活力ある県立高校のあり方検討委員会名簿

（令和５年５月９日現在）

（委員 16 名、敬称略）

役　職	氏　　名	委　員　の　所　属　等
委員長	金岡　克己	(公社)富山県教育会　会長 (学)富山国際学園　理事長
副委員長	牧田　和樹	富山経済同友会　代表幹事 (一社)全国高等学校ＰＴＡ連合会　相談役
委　員	伊東潤一郎	アイティオ(株)　代表取締役社長
委　員	稲田　裕彦	救急薬品工業(株)　代表取締役社長
委　員	尾畑　納子	富山市教育委員会　教育委員
委　員	河上めぐみ	(有)土遊野　代表取締役
委　員	近藤　智久	高岡市教育委員会　教育長
委　員	品川祐一郎	トヨタモビリティ富山(株)　代表取締役社長
委　員	白江　　勉	砺波市教育委員会　教育長
委　員	白江日呂雄	富山県中学校長会　前会長
委　員	鈴木真由美	(大)富山県立大学　キャリアセンター所長 富山県立大学工学部機械システム工学科　教授
委　員	須田　英克	富山県私立中学高等学校協会　会長
委　員	能作　千春	(株)能作　代表取締役社長
委　員	本江　孝一	富山県高等学校長協会　前会長
委　員	松山　朋朗 (堀井　鉄也)	富山県高等学校ＰＴＡ連合会　会長 ※堀井委員は、令和４年３月 31 日まで
委　員	本島　直美	富山県ＰＴＡ連合会　参与

アドバイザー	大島　まり	東京大学大学院情報学環／生産技術研究所　教授
アドバイザー	耳塚　寛明	青山学院大学 コミュニティ人間科学部 特任教授

用語の解説

番号	用　語	説　明
※１ (P1)	Society5.0	サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）のことをいいます。
※２ (P2)	ＩｏＴ (Internet of Things)	従来インターネットに接続されていなかった様々なモノが、ネットワークを通じてサーバーやクラウドサービスに接続され、相互に情報交換をする仕組みのことをいいます。モノがインターネットと接続されることによって、これまでに無かった、より高い価値やサービスを生み出すことが可能になります。
※３ (P2)	三つの方針(スクール・ポリシー)	学校教育法施行規則の改正（学校教育法施行規則等の一部を改正する省令(令和３年３月 31 日公布)）により、各高等学校が育てたい生徒像に基づいて目指す方向や特色・魅力ある教育の実現に向けた指針となる、Ⅰ．育成をめざす資質・能力に関する方針(グラデュエーション・ポリシー) Ⅱ．教育課程の編成・実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）Ⅲ．入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）の三つの方針のことをいいます。
※４ (P2)	17 歳の挑戦	職業体験や、大学等で実験・実習・ゼミ体験をする「アカデミック・インターンシップ」や、県内企業に関する理解を促進するための「夢発見とやま企業魅力体験」を実施する富山県の事業のことをいいます。県立高校の生徒が将来就く可能性のある仕事に関連する活動を体験することで、進路意識を育み、進路選択につなげることを目的に実施されています。
※５ (P3)	カリキュラム・マネジメント	学校の教育目標の実現に向けて、子どもや地域の実態を踏まえ、教育課程（学校の教育目標を実現するために、自校の生徒たちに必要な教育活動の内容や時間を考えた上で編成する、各学校の教育計画）を編成・実施・評価し、改善を図る一連のサイクルを計画的・組織的に推進していくことであり、また、そのための条件づくり・整備のことをいいます。
※６ (P3)	プロジェクト学習	児童生徒が自ら課題を発見し、目標を明確にし、情報を集めて、考えを深め、最終的に成果物等に表すことを通して、課題解決へと導く力を育む学習活動のことをいいます。

番号	項　目	説　明
※７ (P3)	三つの柱	新学習指導要領では、子どもたち一人ひとりに「生きる力」を育成するために、各教科等において、以下の三つの資質・能力を育成することとされました（「資質・能力の三つの柱」）。 ・実際の社会や社会の中で生きて働く「知識及び技能」 ・未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」 ・学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」
※８ (P5)	ウェルビーイング (well-being)	心も身体も社会的にも満たされた状態、実感としての幸せ、心の豊かさなどを表します。 富山県成長戦略では「収入や健康といった外形的な価値だけでなく、キャリアなど社会的な立場、周囲の人間関係や地域社会とのつながりなども含めて、自分らしくいきいきと生きられること、主観的な幸福度を重視」と記載されています。
※９ (P5)	ＩＣＴ (Information and Communication Technology)	教育分野においては、誰でもいつでもどこでも最先端の学習環境を実現するため、クラウド等を活用した、低コストで利用可能な教育ＩＣＴ(情報通信技術)システムの環境構築や若年層に対するプログラミング教育の推進に取り組んでいます。
※10 (P5)	情報通信技術支援員	学校における教員のＩＣＴ活用（例えば、授業、校務、教員研修等の場面）をサポートすることにより、ＩＣＴを活用した授業等を教員がスムーズに行うための支援を行います。
※11 (P5)	ＳＳＨ （スーパーサイエンスハイスクール）	文部科学省が平成14年度から高等学校等において実施している取組みで、各学校で作成した計画に基づき、独自のカリキュラムによる授業や、大学・研究機関などとの連携、地域の特色を生かした課題研究など様々な取組みを積極的に行い、国際的に通用する科学技術人材の育成を目標としています。
※12 (P5)	ＳＧＨ （スーパーグローバルハイスクール）	文部科学省が平成26年度から高等学校等において実施している取組みで、国際化を進める国内の大学を中心に、企業、国際機関等と連携を図り、グローバルなビジネスで活躍できる人材の育成を目標としています。
※13 (P5)	スクールカウンセラー	子どもや家族の抱える悩み、不安等を改善、解決していく心の専門家のことをいいます。

番号	項　目	説　明
※14 (P9)	ＤＸ （デジタルトランスフォーメーション）	デジタル技術を浸透させることで、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させることをいいます。ウメオ大学（スウェーデン）のエリック・ストルターマン教授が2004年に提唱した概念です。
※15 (P11)	オープンハイスクール	中学生が自ら学びたい学校を選択するために、県立高校を体験入学できる制度のことをいいます。
※16 (P14)	ＳＴＥＡＭ教育	Science（科学）、Technology（技術）、Engineering（工学）、Arts（リベラル・アーツ）、Mathematics（数学）の５分野の学習により、問題発見・問題解決に生かしていくための教科等横断的な教育をいいます。課題解決型の探究的な学びや、文系・理系という枠組みにとらわれない教科等横断的な教育であり、幅広い分野で新しい価値を創造できる生徒の養成を目指すものです。
※17 (P19)	６次産業化	農業等を１次産業としてだけではなく、加工などの２次産業、サービスや販売などの３次産業までを含め、１次から３次まで一体化した産業としての農業等の可能性を広げようとするものです。
※18 (P19)	スマート農業	ロボット、ＡＩ、ＩｏＴなど先端技術を活用する農業のことをいいます。
※19 (P19)	ＧＡＰ (Good Agricultural Practices:農業生産工程管理)	農産物（食品）の安全を確保し、より良い農業経営を実現するために、農業生産において、食品安全だけでなく、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取組みのことをいいます。
※20 (P19)	アグリマイスター顕彰制度	農業系高校で学ぶ生徒が高等学校在学中に取り組んだ学校農業クラブ活動や、農業に関する学習とつながりの強い検定・資格、教養を高める上でも有効な検定・資格を区分表から得点に換算し、その合計得点により、アグリマイスター「シルバー」「ゴールド」「プラチナ」に認定する制度です。
※21 (P19)	ＨＡＣＣＰ（ハサップ） (Hazard Analysis and Critical Control Point)	食品等事業者自らが食中毒菌汚染や異物混入等の危害要因（ハザード）を把握した上で、原材料の入荷から製品の出荷に至る全工程の中で、それらの危害要因を除去又は低減させるために特に重要な工程を管理し、製品の安全性を確保しようとする衛生管理の手法です。

番号	項　目	説　明
※22 (P20)	ＳＤＧｓ (Sustainable Development Goals)	2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標のことをいいます。17のゴール、169のターゲットから構成されています。
※23 (P20)	ライブコマース	ライブ配信の動画を活用してユーザーの購買を促すオンライン販売のことをいいます。
※24 (P21)	ジュニアマイスター顕彰制度	社会が求める専門的な資格・知識を持つ生徒の輩出を目的とし、社会及び大学や企業に向けた工業高校の評価向上を目指して（公益社団法人）全国工業高等学校長協会が設立した制度で、生徒が在学中に取得した職業資格や各検定の等級、入賞したコンテストに対して得た点数の合計によって、「ジュニアマイスターブロンズ」、「ジュニアマイスターシルバー」、「ジュニアマイスターゴールド」の称号が贈られています。
※25 (P21)	ローカル５Ｇ	全国的にサービスを提供する携帯事業者とは異なり、主に建物内や敷地内での利活用について個別に構築する５Ｇシステムです。地域や産業の個別のニーズに応じて地域の企業や自治体等の様々な主体が、自らの土地内でスポット的に柔軟に構築できます。（５Ｇとは、高速・大容量通信に加えて、通信の遅延が少ない高品質な通信が可能で、多数同時接続も満たす第５世代移動通信システムのことをいいます。）
※26 (P21)	スマート専門高校	Society5.0時代における地域の産業を支える職業人育成を進めるため、デジタル化対応装置の環境を整備することにより、最先端の職業教育を行う専門高校のことをいいます。
※27 (P22)	デジタルマーケティング	スマートフォンのアプリや電子看板、実店舗におけるモバイル決済やポイントサービスなど、各種デジタル技術を利用したマーケティング活動のことをいいます。
※28 (P22)	ＶＵＣＡ(ブーカ)時代	Volatility（変動性・不安定さ)、Uncertainty（不確実性・不確定さ)、 Complexity（複雑性)、Ambiguity（曖昧性・不明確さ）の略語で、不確実な時代のことをいいます。
※29 (P24)	シミュレータ	一般的には、現実の環境や現象、物体を模擬的に再現しているシステムやソフトウェアのことをいいます。ここでは、看護の練習に使用する医療用模型のことをいいます。

番号	項　目	説　明
※30 (P26)	多部制	定時制課程において、１日のうち、午前の部、午後の部、夜間の部を設けることにより、午前から夜間に至るまで常時科目を開設し、生徒のペースにあわせて時間割をつくって、必要な科目を学ぶことができる制度のことをいいます。
※31 (P26)	スクールソーシャルワーカー	家庭等の環境に働きかけ、よりよい教育環境づくりのためにネットワークを築く社会福祉の専門家のことをいいます。
※32 (P26)	ジョブサポートティーチャー	進路指導主事等と連携して、就職希望生徒に対する就職相談、求人企業の開拓などを行う教員のことをいいます。
※33 (P33)	デュアルシステム	長期間の職業訓練のなかで、企業が必要とする実践的な技能・技術を身に付けるために、学校での座学と企業での実習を組み合わせて行う新教育システムのことをいいます。
※34 (P37)	子ども食堂	子どもやその保護者及び地域住民に対し、無料または安価で栄養のある食事や温かな団欒を提供するための社会活動のことをいいます。